

令和6年度 第12回藤沢市市政運営の総合指針改定委員会

日時 2024年12月25日（水）

政策会議終了後

場所 庁議室

日 程

1 開会

2 議題

- （1）前回会議の開催結果について
- （2）市議会議員全員協議会（2024年12月4日）への報告について
- （3）パブリックコメント（1回目）の実施結果について
- （4）13地区郷土づくり推進会議等からの意見聴取の状況について
- （5）関係団体・協議会等からの意見聴取の状況について
- （6）その他

3 閉会

（事務局 企画政策部企画政策課 内線2175）

議事録

藤沢市市政運営の総合指針改定委員会を次のとおり開催した。

会議名	令和6年度第11回藤沢市市政運営の総合指針改定委員会
開催日	2024年（令和6年）11月14日（木）9：26～10：00
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	鈴木市長、中山副市長、川崎副市長、岩本教育長 （改定委員会委員） 総務部長、企画政策部長、財務部長、防災安全部長、市民自治部長、生涯学習部長、福祉部長、健康医療部長、保健所長、子ども青少年部長、環境部長、経済部長、計画建築部長、都市整備部長、道路河川部長、下水道部長、市民病院事務局長、消防局長、教育部長、議会事務局長、監査事務局長、選挙管理委員会事務局長、農業委員会事務局長
議 事	議題（審議事項） (1) 前回会議の開催結果について (2) 重点方針改定素案作成に向けた意見照会の実施結果について (3) 議員全員協議会報告内容について（確認依頼） (4) その他
内 容	1 開会 2 議事 (1) 前回会議の開催結果について 企画政策部長からの概要説明については省略。 《内容》 10月31日の第10回会議開催結果を確認いただくもの。 《主な意見等》 なし。 (2) 重点方針改定素案作成に向けた意見照会の実施結果について 企画政策部長及び企画政策課から概要を説明。 《内容》 重点方針改定素案に関して、前回の意見交換を行った後に確認を行った結果を報告、調整するもの。 《主な意見等》 ○まちづくりテーマ1の「安全で安心な暮らしを築く」を「安全で安心なまちをつくる」にしたいと修正要望が出ているが、修正してよいか。 （意見なし） ⇒要望のとおり修正する。 (3) 議員全員協議会報告内容について（確認依頼） 企画政策部長及び企画政策課から概要を説明。

内 容	＜内容＞ 12月に実施予定の議員全員協議会に関して、資料の案を提示し、確認依頼を行うもの。 ○資料3－0の審査区分に関して ⇒今回までは、指針の全体像についての審査なので、全庁体制での出席をお願いしたい。 (4) その他 資料について、修正等が必要な場合は週明け早い段階までにいただきたい。また、議員全員協議会資料の中で、長期ビジョン検討委員会に関するものが2点あり、午後の検討委員会において確認依頼を行う予定である。 3 閉会
------------	---

市議会議員全員協議会（12月4日）での主な質疑

ステージ1

No.	質問・意見	回答
石井議員		
1	長期的なビジョンは2045年という一つの年度を設定しているが、総合指針2024では、2040年であった。これを2040年ではなく、2050年でもなく、2045年に設定した理由を、おおむね20年後の未来を設定する以外の理由で教えてほしい。	改定委員会等において議論を行った。都市基盤の整備は、20年先を見据えながらやっていくのが必須ではないかとの意見があり、それが主な理由である。また、市民や関係団体の皆さんと課題意識を共有するためにも、20年という設定がいいのではないかとこの意見があり決めている。
2	総合指針2024の2040年の藤沢市の姿に関して、今回、5年変わって記載されているが、あまり変化が見られない内容である。2040年に目指していたものがあって、それを目指すために4年間の事業計画を立ててきたと思うと、2045年に設定して変わることがあるのか。	前回の指針は2040年を見据えて策定した。5年延びてもそれほど状況に変化はない印象である。変わった部分は、子ども関係や、新しい人口推計により2035年がピークになったことで、今までの人口推計からは少し延びたり、減少のカーブが少し緩やかになった部分を踏まえて、2045年のあるべき姿を見直している。
3	2040年に目指していたものが実際にどこまで達成されていて、そこから2045年というものを目指すべきと考えるが、2040年に向けての検証結果は今回示されないのか。	基本方針の部分で、そういった目標は特段定めておらず、めざす都市像などに対する市民意識調査の結果で測っている。めざす都市像に関する市民意識調査結果としては高い値が出ていると評価をしている。
4	今回も総合指針の基本方針と2045年の姿に関してのKPI設定がない。どのような評価基準で評価をする予定なのか聞きたい。	長期的な見通しの指標については、現在の素案の中では、基本目標ごとに「2045年の藤沢市の姿として」と目指す姿を描いている。目指す姿は定性的に書いているので、分かりにくいところもあるが、これに対して個別に数値設定を求めることは難しいと捉えている。直近4年間で取り組む重点事業については、可能な限り客観的に確認できる指標を設定した上で、事務事業評価なども活用しながら取り組みたい。
5	評価の基準として、市民満足度等調査があり、一つのアンケートの取り方としてはいいと思うが、そもそも今まで	これまでの総合指針の進め方においては、重点事業ごとの評価は事務事業評価があり、その中で指標を持って公開をしている。

	掲げてきた事業がどこまで達成したのかの数値的な評価はないのか。満足度等調査だけではなくて、市として、この目標に対して、どこまで達成したかの検証結果は出さないのか。	
6	事務事業評価についても、K P I の設定が甘いのではないか。今回、総合指針が改定されることを機に、事務事業評価のK P I の設定も刷新していくことが必要なのではないか。	今年度、事務事業評価については、新たな設定をして、事業数を若干減らしているが、成果指標の設定が5割ぐらいにとどまっている。設定ができない理由も言葉で記載しているが、設定がよりよくできるように、さらに働きかけていきたい。
7	総合指針 2028 の評価をするに当たって、市民満足度等調査を今回も活用すると書いている。市民満足度等調査に対するK P I の設定はできるのではと思うが考えを聞きたい。	市民満足度等調査について、どういったK P I を設定するかというと、また検討が必要だと思う。以前の議員全員協議会でも、市民意識調査の数字を上げることだけにこだわってしまうと、コスト意識などが失われるのではないかという意見もあったので、引き続きどのような設定をしていけばいいかは考えていかなければならない。今の評価として80%は結構高い数字であると思っているので、それを維持しながら、少しでも上に行けるような形で考えたい。
8	K P I の設定をしっかりと個々にするという認識でいいのか。	いろいろな施策、事業を考えるときにK P I、K G I などの数値化は大変重要なものという認識に変わりはない。それをどこにつくるかは、長期課題に関しては、数値的な目標を掲げることがメリットになる部分と、なかなかそうはなりにくい部分、混乱を招いてしまうのではないかとということも含めて、いろいろな視点から検討しているところである。事務事業評価の重点事業評価については比較的導入しやすいものと思っているが、市民満足度等調査については、どちらかというと数値化に課題があると思っている。そのため、K P I を設定するかについては、十分検討させていただき、必要に応じて考えているのが現状である。

9	市民の皆様に思いを伺うということでたくさん意見聴取したと思うが、藤沢市はこどもまんなか社会もしっかり進めていくということで、子どもたちから意見聴取はしたのか。	今回のアンケート調査については、全世代を対象にさせていただいた。その際に市内の各高校にはチラシを配り、アンケートに協力していただくように求めたり、ワークショップを開催することにより、大学生の意見も聞いた。また、アンケートの分析に大学生のインターンシップを活用するなどして、こどもまんなか社会ということで、これから社会で活躍されるような世代の方の意見も聞いたものと考えている。
10	それで十分なのかというのはすごく疑問に思っている。2045年の藤沢市の姿、先ほどから言っている20年を考えると、5歳でも25歳、働いている年齢である。高校生以上からではなくて、何で小学生、中学生にアンケートを取らなかったのか聞きたい。 —総合指針には子どもの意見は要らないとも聞こえるが、子どもの意見は総合指針に必要という考えか。	今回はLINEアンケートという形で全世代を対象にさせていただき少し年代を拡充したのと、周知方法については、高校生を中心に、高校に依頼するなどの方策を取らせていただいた。ただ、結果として数字はそこまで出ていないので、やり方については、今回のことを踏まえて検討していきたい。子どもの意見を聴取するのは、これから出てくる子ども・子育ての計画の中でやり方を定めていくと思っているため、横断的連携によって決めて、次回については、きちんと子ども・若者の意見聴取ができるように努めていきたい。 —全ての計画に必要なと思っている。
11	まちづくりコンセプトについて、インクルーシブとサステナブルとスマートが継続されるということだが、インクルーシブのところでユニバーサルデザインという言葉が出てくる。インクルーシブを進めるに当たって、インクルーシブデザインという表現のほうが本来の趣旨には合うと感じているが、インクルーシブデザインという表現に変えない理由について聞きたい。	一般論として、ユニバーサルデザインというのは、初めから幅広いユーザーを対象にしたものという意味で、その対象にしたものから生み出されたデザインをいうと思っている。また、インクルーシブデザインは、誰もが帰属意識を持てるように、1人の課題を解決することを目的に生み出されるデザインになる。そういった意味では、インクルーシブデザインもユニバーサルデザインも、例えば施設整備をする際には、目標

		としては同様と考えるが、これからの公共施設の在り方や、SDGsの考え方を踏まえると、インクルーシブデザインとユニバーサルデザインの両方の意味合いを持ちながら、公共施設の再整備に取り組んでいくものと考えている。
12	インクルーシブデザインは、ユーザーのニーズに寄り添った取組を進めることによって、目的を達成する。ユニバーサルデザインは、どちらかというと、決まった概念の下、誰もが使いやすいようにつくる。市長が掲げる共創の考え方では、デザインを組み立てる段階からユーザーに寄り添うという意味において、インクルーシブデザインのほうが共創という大きなまちづくりテーマに沿うのではないか。そうであれば併記して、インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザインと書いたほうが望ましいと思うが、市の見解を聞きたい。	表現の違いという部分について、共創という部分も含めた中での表記について改めて検討させていただきたい。
13	(意見) こどもまんなか社会がこれから進むに当たって、子どもの意見を必要とするという答弁があったので、ぜひ、小学生、中学生も含めて、子どもの意見をもう少し広く聞いてみていただきたい。また、KPIについて、難しいと話があったが、資料4を拝見すると細かく意識調査をされている。個々にされているものに対して、総合指針2028では、どれぐらいのパーセンテージを得られるようにしようというKPIの設定は必ずできると思うので、市民満足度等調査でどれぐらいのKPIを設定するのかも含めて検討いただきたい。	意見のため回答なし

柳沢議員		
14	今回、素案が出てきて、平和の問題をどう位置づけていくのかは、20年後の藤沢市政を標榜するなかで、非常に重要だと思っているが、考え方を聞かせてほしい。	平和については、今の2024の中でも、基本目標8の中に、ジェンダー平等や、平和な社会の実現、人権の尊重といった部分を記載させていただいている。今回、そういったものは共通の基盤であろうというところから、めざす都市像の中にも人権や平和を意識するというような表現を加えている。
15	平和が大前提なのは共通だということだが、基地を近隣に抱えている藤沢市としては基本的な問題として位置づけないといけないだろうと思っている。核兵器廃絶の問題が一言も出ていないというのはまずいのではないか。世界的に見ても、ノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会が受賞する時代の中で、藤沢市が核兵器廃絶平和都市宣言をしていることも含めて、20年後の藤沢のめざす都市像の柱に入れるべきだと感じているが、もう一度お答えをいただきたい。	平和については、めざす都市像の中で、人権や平和を記載しているところである。核兵器の廃絶の部分については、核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例や、核兵器廃絶平和都市宣言を藤沢市は掲げているので、それに基づいて、平和学習の広島、長崎、ピースリングバスツアーなどを実施している。これらの事業については、藤沢の先人たちが世界、藤沢の未来を考えて受け継いできたもの、また、これからも受け継ぐべきものと認識をしている。指針の中でも、途絶えさせることなく進めるものという考え方の下で、普遍的な市の政策として実現していきたいという捉え方をしている。
塚本議員		
16	現状の課題の把握に関しては網羅されているけれども、行政施策を展開していく事業に主眼を置いた指針となっている。近年、ずっと課題になっている歳入に関して、ないものはできませんと書いてあるように見えるが、逆だと思う。未来にこういう事業を展開していくためには、これだけの歳入が必要で、その歳入を確保する施策を展開しますという歳入確保をしっかり示さないといけないと思う。でも、この指針には、歳入確保に関する記述がほぼない。財政計画も同じウエートぐらいでつくっ	現状については、行政運営の考え方で、財政見通しを踏まえた財政運営として整理をしている。直接的な表記は少し欠けていると考えるが、政策を実施するために財源が必要というところで検討し、先日の中期財政見通しでは、歳入確保策について具体的なことも書いている。その見通しを意識してつくっているのが前提だが、財政の厳しさにスポットを当てる中で、 歳入をどうやって確保するのかをもう少し強く打ち出すことが必要とは考えている。指針では、歳入を充てていく重点事業の実施を確実なものにするため、歳入確保は当然重要な視点

	ていく必要がある。あるいは、この指針の中に財政計画なるものを一つの柱としておくべきではないかと感じたが市の考え方は。	になるので、記載についても検討させていただきたい。 財務部(18と合わせて)
17	具体的にどういう施策を展開して歳入を確保しようと考えているか。	長いスパンでは、都市基盤整備事業などに伴う企業誘致や経済振興を図っていく中での税収確保が人口増につながるという観点。それから、もう少し短いスパンでは、経営的な視点を入れて、ふるさと納税にしっかりと取り組むことは既に行っているが、施設整備を行った際には、ネーミングライツを使っていくことや、企業協賛を得ることも含めて、歳入確保策を可能なものはしっかりと検討して進める考え方である。
18	財政計画、歳入確保に関しては、方向性を明確に定めて示さないと、市民の皆様も藤沢市政に希望を持ってない状況になる。いいことばかり書いても、基となるものがしっかりと担保されていなければ、絵に描いた餅である。今、ご答弁いただいたが、歳入確保はまず、藤沢市の基幹税である個人市民税と固定資産税をどう上げていくかである。市民税を上げていくためには、人口を減らさない、増やしていく施策を具体的に示さないといけない。固定資産税もしっかりと確保していくためには、土地の価値をどう上げるかという施策展開も必要。土地施策は、これまでの藤沢市の伝統や文化や景観はあるが、どこかの段階で規制を緩和していくなどの方向で土地活用を促していくことも考えていかないといけない。基幹税をしっかりと得るための方途を示すとともに、もう一つ加えて、自治体も民間企業のように稼ぐという取組が必要と申し上げたい。そういう視点も盛り込んだも	財政見通しのほうは改定をしてお示しさせていただいた。指針の改定作業と並行して、指針の事業費を盛り込んだ中での推計になっている。歳入確保についても、今後の毎年の財源不足を解消するためにはやっていくと表記はしているが、財政計画、歳入を確保していくという、より具体的な部分についてまで落とし込んだ財政の視点ということでの記載はしていない。意見いただいた内容を踏まえて、今後、2月に総合指針を報告する間に、企画部門と、稼ぐという意味でいけば、来年度に新しく組織ができる方向になっていので、そのあたりとも連携しながら、具体的にどこまで書けるか、庁内で調整を図りたい。

	のを計画として示さないといけない時期に来ている。今、素案の段階で、歳入確保というものがあまりにも薄い。社会要因ではなくて、行政施策の展開によって人口が増えたという計画を示してほしいと考えるが、見解は。	
原田議員		
19	大学生を交えたワークショップでの検討の今後について、今回の指針策定に向けて設定をされた場だとは思いますが、これで解散なのか、それとも継続した形を何か考えているのか。	市内の5大学の学生たちを募って行ったものは、ここで終了と考えている。参加してくださった皆さんには、どういう形で皆さんの意見を反映させていくかの報告はしている。各大学の学生たちとは、例えば湘南工科大学とは、地域デザインの事業を、包括連携協定を結んでいる企業と行政と大学が一緒に行うなどしている。一堂に会してということは一旦終了ではあるが、個々には引き続き連携を進めたい。
20	今後、継続した形を取っていくのであれば、大学生に聞くべき、主体となってもらうテーマ設定が必要と思っている。大学生だけではなくて、学校における不登校の問題など、その場にいる当事者である例えば中学生たちなりの思いや、課題解決のための意見があると思う。私たちが一番聞いて解決しなければいけない課題から抽出して、テーマを持って持続的な関係性をつくり、総合指針にとどまらず、子どもの意見を聞くことは、社会課題の当事者たちに意見を聞くという姿勢を、私たちが持つ行政にしていくことを示すことが必要なのではと思うがいかがか。	子どもの意見聴取、意見反映については、全ての計画、事業の実施に必要なことである。それを踏まえて、子ども・子育て支援事業計画を検討しているし、今回、重点事業の想定の一覧でも出しているように、そういった施策を今後4年間で重点事業化していこうと考えている。子どもたちがどういったテーマでやっていきたいか、単発か、継続をしていったほうが一緒に盛り上げていけるのか判断しながら、事業展開を進めていくものと思っている。大学生からも、継続して関わっていきたいという提案になっていたのも、それが基本目標8の関係人口を入れる要素になっているように、ぶらさず進めていきたい。
栗原議員		
21	市民意識調査について、80%以上の方々が満足しているということで、合格点かなという答弁があった。80%を維持していることは評価をさせていた	その20%の方々がどのような不満を持たれているかは、人それぞれと思っている。今回、市民意識調査、もしくは市民アンケートをした中で、いろいろ意見が出ていたと

	だが、20%の方々は満足をしていないと見てとれる。その20%の方々の数値をこれからどうやって反映していくのか、聞かせてほしい。	いう状況がある。意見は各部局にも共有をして、その中で、少しでも満足度が高まるような、ニーズを拾った施策ができる形で進めたい。
22	毎回検討しながら行っているという答弁をいただいている。そういった答弁の割には、数値の上下もあまりない。今答弁いただいたことにはあまり反映をしていないのが、その数字の裏づけに出てしまっていると感じている。様々な方の意見やお考えがあるので、市民満足度が100%に行くことはないと思うが、85%を目指すとか、90%に行くとか、そういったことはどのように考えているのか。	満足度調査の不満の20%については、その理由をできる限り把握し、100%を目指すのが基本的な姿勢であるのは間違いない。その中で、各部局が市民ニーズを捉える努力をしていかなければいけない。広聴をしつかりして、聞き取っていくことと、我々職員が自ら想像力を働かせて考えていく姿勢も必要と思っている。数値化、エビデンスも含めて想像し、検討、分析する地道な積み重ねがニーズに応えることになる。そういった努力を各部局がしっかりと積み上げると、その先に残り20%の方々へのアプローチがあると考えている。非常に難しい課題である。20%にどれだけの労力をかけるのかの意見も一方ではあるので、その意見もししっかりと受け止める中で対応したい。
23	現状、80%、81%を維持するに当たり、職員の方の100%の労力を使って80%を維持しているのか、もしくは、今の体制、職員数、勤務時間など、その辺を含めて、85%に上げる余力がまだまだあるのか。今後、10年、15年、行政のスリム化、効率化、DXなど、様々なものが合わさってくると思うが、まだまだ余力があるのか、または、何かしらの体制を一新しなければ、今後、10年、15年、85%、90%に上げていくことができないのか、聞かせていただきたい。	職員の余力について、職員数は定員管理基本方針に基づいて、必要最低限で、効率的、効果的な執行体制を構築していくのが大前提である。その中で、職員それぞれの個人の能力もあるが、今回の指針で共創の考え方を示している。行政の役割を今後考えていかなければいけないと思っている。20%の部分に全て市が応えていくのかも大きな課題だと思っているので、今後の職員の在り方としては、地域や様々な団体の皆さんと議論する中で、行政は何をしていくのか、しないのか。その上で市民の方にも納得していただくことが非常に重要になる。これから共創を進めていく考え方の下で言うと、まだ余力はあるものと考えているし、その理念をいかに浸透させるかは、今後つくる共創推進課の役割と考えて進めたい。

ステージ2

町田議員		
企画政策部 子ども青少年部	24	藤沢市若者世代の結婚・子育てに関する意識調査報告書においては、子どもを希望する未婚者の割合が8割程度という数値が出ている。また、将来結婚しないと思う理由で一番多くを占めているのが、7割程度で、「恋人・パートナーがいないから／見つからないと思うから」と回答した未婚者の方がいることが結果で出ている。その上で、基本目標4の長期課題を見ると、「自らのキャリア形成や趣味での活動などとのバランスをとること、子育て・教育にかかる費用と経済的な安定などに対する不安が根本にある」と見解があるが、むしろ未婚者においては、経済的な負担よりも「恋人・パートナーがいないから／見つからないと思うから」が理由で未婚であることを選び、また、それが出生率の低下につながっているのではないかと。なぜ総合指針においては、少子化の原因をそのように記載しているのか根拠を聞きたい。
	25	経済的な不安や結婚、妊娠、出産に影響することはあると思うが、一方で、合計特殊出生率ではなくて、完結出生児数で言えば1.9人と、結婚さえすれば子どもが育まれるデータもあるなかで、経済的な不安が大前提にあるとして、少子化の背景は、未婚化、晩婚化が影響しているのではないかと以前主張した。 総合指針にも未婚者への支援を盛り込んでいただくことが少子化対策の根本的な議論になるのではないかと考えている。子育て支援策をしないではいまいとか、するなと言うわけではなく、子育て 少子化に至る、あるいは、子どもを持たない若者が考える理由は様々あると思っている。その中には、今回、子ども青少年部で行った基礎調査でのアンケート結果にもあったように、ふさわしい相手に巡り会えないことも一つの原因であるということは認識している。一方で、社会全体を捉えたときに、まず結婚をしない理由の一つとしては、パートナーに会えていないことがあると思うが、子どもを持たない選択をする方の多くの理由として、若い世代において、自らのキャリアや将来的な経済的な不安、あるいは、自分の自由な時間が侵されるのではないかという、自己実現に対する不安が大きいとの国の調査結果に基づき、記述をしている。 受け止めてさせていただきたいが、出生率を語るときは、合計特殊出生率で語られる場面が多いが、合計特殊出生率は、地方で高く、都心では低いという数値がどうしても出る。ただ、出生の数でいうと、地方では出生数が減少しているところがある。少子化の背景にあるものをしっかりと読み解いて、1人生まれたら何十万円出しますといった現金給付ではなくて、長期的な視点に立った上では、若者の所得の向上と考えており、地元で働ける職住近接という考え方で自治体としては地元創生の施策に取り組むべきだと思っている。少子化対策は課

	て支援策を少子化の文脈で語るのは根拠が乏しいのではという指摘である。未婚者に対する支援への思いや、ほかに総合指針の中で触れている点はあるか。	題の表層だけを捉えるのではなくて、本質を探って、藤沢市の状況はどうなのかという仮説を立てながら、施策を展開する必要があると思うので、提案に対しては、一旦受け止めてさせていただきたい。
26	（意見） 同じ方向を向いていると思っている。また、若者に限らずだが、所得の向上をどう実現するかは、今後話していきたい。各自治体が置かれた状況において、出生率がそれぞれどのように改善していくべきか、自然増を目指していくべきか、社会増を目指していくべきなのかは、少子化対策だけでなく、人口政策の文脈で議論していく必要があるのではないかと。特に藤沢市が置かれた立場としては、日本全体のことを考えれば、自然増を目指していくことが好ましいことではないかと思うので、もう少し密に考えていただきたい。	意見のため回答なし
原田議員		
27	基本目標１に関して、災害時の復興とまでは書いてあるが、直接的な災害、一次的な被害を最小化しようということである。健康で安心な暮らしを支えることが、災害が起こったときにもそれが持続できるという関連性が表現されていない。基本目標１の中で触れるのか、その後に譲るのかはともかく、ふだんから地域包括ケアシステムが機能しているかどうかで、災害時の回復期の問題も改善をするという観点は必要ではないかと思うがいかがか。	強靱化については、前回の指針よりも踏み込んで、まちづくりテーマ１のところでも基本目標１と同じような表現をしている。個別の事業で、直接死を防ぐ、関連死を防ぐという具体の項目までは指針の素案には入っていないが、今回の指針の改定に当たっては、長期課題で「強くてしなやかなまちを構築する」という強靱化の視点を入れた中で、国土強靱化基本法のガイドライン等で述べられている、いわゆる総合計画、総合指針と整合、調和を図る国土強靱化地域計画の具体的な基本目標の中に直接死を防ぐと関連死を防ぐという部分を並列にして、その後に続く施策と事業をひもづけているので、こういう表現にとどめている。

28	基本目標3の20年後の姿で「リサイクルされずに廃棄されるプラスチックがゼロとなっている」という現況の評価に対して、4年間の総合指針の中では、「プラスチックごみがない生態系に優しい藤沢の実現に取り組む必要があります」とある。河川上流市等との協働は言われているが、世界的なプラスチックの条約の動向を見ても、非常にスピードが速い流れの中で、排出をどうやって抑制していくかの取組は、自治体からの発信も大変重要になっている。世界的な条約の過程で、日本がかなりポジションを持っているので、藤沢市は海を抱えて、どういう発信をしていくのか。生産者に対する発生抑制、プラスチックの生産自体を考える観点から、観光や自然資源からの発信ができるポジションにある藤沢市が発信をして、プラスチックごみの生産に遡った、そこに言及する表現をアプローチが必要ではないか。	プラスチックの生産制限については、国際的なプラスチック条約の議論が最近されているところで、その中でも、経済に絡む問題で、生産制限に係る部分については各国の意見の一致が見られず、次の会議に持ち越しというような状況がある。そういう中で、自治体から生産制限に関して何か発信をしていくことはなかなか難しいと捉えている。役割として、プラスチックごみの8割が河川から海に流れていくというところでは、上流部等と連携しながら、そこに流れていくごみをできるだけ少なくしていく、分別排出に御協力いただく、海岸の美化清掃を行いながら、マイクロプラスチックの発生を防いでいくという排出抑制の部分について、自治体としては取り組んでいきたいと考えている。
29	生産者である企業等が現状に対して負担をしないでいるという状況については、アプローチのしようがあるのではないか。20年後にどういう望ましい姿なのかを生産者の皆さんとも共有していく、それを発信していく作業は、むしろ現場であるからこそできるのではないか。条約が行き詰まっている、だからこそ、今、発信する意味があるのではないか。海岸での清掃活動にもっとお金を出させるとか、企業に対して、協働でそれをやるように呼びかけるといったようなことは、藤沢市ができることではないかと思うが、具体的などころではいかがか。	一自治体として取り組めることについては検討する余地があると考えている。ただ、国のプラスチック資源循環戦略の中でも、排出する側の拡大生産者責任として、事業者側にもそういったことを求めている部分もあり、プラスチック自体については、素材そのもので循環をするという意味で、プラスチック循環促進法という個別の法律もあり、その中で、具体的に排出する側のいろいろな法的な規制も規定されているので、そこに加えて、一自治体として何かできることがあるかを検討させていただきたい。

30	「こどもの権利が守られ、ライフステージに応じた支援が切れ目なく受けられる。また、そのために必要な人材が育成・確保されている」という20年後を描いているが、一方で、20年後の望ましい姿において「地域人材の活用等を中長期課題とする」という文言があって、示された基本目標4では、緊急的な課題という認識にはなっていない。職住近接や、子どもの支援、介護人材の確保においても、それがよりリアルのある職住近接で、子どもを育ててきた経験、介護をしてきた経験を財産として仕事にできる環境づくりが必要だと思っている。今後の藤沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、どこまで沿ったものが出てくるかは、これからのテーマになると思っているので、そこにつながるように申し上げたい。不登校の子はそのまま放置されている、特性のある子たちも、教室の中にあって、なかなか支援の手が届かない。こういうところに関して、「地域人材の活用等を中長期課題とする」では困る。短期的な総合指針の4年の中で、より具体的に描けるような計画をお示しいただきたい。	中長期課題ということで6月に整理させていただいた内容を踏まえて、基本目標を大幅に書き直しをしているのと、それとともに、第2章の重点方針のまちづくりテーマ3も併せて大幅に変えていて、要望に近い表現が使われていると思っている。そういったことから、4年間、緊急性を持って取り組む課題にも落とし込まれていると理解いただきたい。人材育成の部分についても、今回、共通の取組テーマで、重点方針の中で挙げている。ただ、より具体的な内容まで落とし込めるかということ、バランスを見ていかなければいけない部分もあるので、それは引き続き検討したい。
石井議員		
31	基本目標1の2045年の藤沢市の姿について、前回の2040年に向けた取組では、感染症の取組の記載があったが、今回、この記載がなくなっている。2045年、それこそ4年後よりも、20年後のほうがパンデミックというものが起こり得ると思うと、感染症災害といったものも、もう少し念頭に入れた2045年の姿を示すべきだと思うが、抜いた理由について伺いたい。	感染症対策については、抜いたということではなく、基本目標1の長期課題の6点目に感染症対策の経験を踏まえて体制強化などは備えをしていくことを長期課題に挙げている。一方で、まちづくりテーマ1の施策の柱から感染症の部分はないが、当面4年間という中では、リード文に「感染症危機にも対応し」という記述にして、新型コロナウイルスは5類に移行している状況を踏まえて、一旦、施策からは省いたが、要素

		としては(1)の中にあるものと整理をしている。
32	基本目標1について、「多様な主体と連携し地域における防災力の強化・充実」と書いてあり、また、2045年の藤沢市の姿として、「テクノロジーの力や民間事業者の知見も活用し」、「多様な主体」と書いてあるが、これは具体的にどういったものを想定されているのか。	現時点でも防災部局においては、いろんな企業や、あらゆる主体と連携して、それをどんどん広げていくという認識である。また、地域の皆さんと一緒に体制をつくり上げていくことも含めた表現で整理をしている。また、テクノロジーの力や民間事業者の知見を活用するという部分についても、色々なアプリの導入もしているが、これから先もっと有用なアプリが出たり、AIも進展していくと思うので、引き続き活用していきたいという将来像を描いている。
33	2045年の藤沢市の姿として「広域連携」とあり、非常に興味深いと思っているが、広域連携というのは何を想定されているのか。	消防・救急体制の充実という部分にかかってくることで、将来、人材不足といったことや、消防・救急体制をさらに充実していくに当たっては、広域連携の考え方を入れていかないとなかなかもたないのではないかとといったことから、将来の藤沢市の姿として入れている。
34	(意見) 基本方針1に対しての意見で、大きな災害等に関しては、特に自助というものが重要になってきている。途中にも自助に関して書いてあり、2045年の藤沢市の姿としてにも書いてあるが、行政ではなくて、地域住民主体による総合防災対策体制の確立とか、なるべく自助が進むような姿を思い描いてもらいたいので、検討いただきたい。	意見のため回答なし 防災安全部
35	基本目標4について、基本目標の長期課題と、2045年の藤沢市の姿としての中に「社会全体」という表現と「地域全体」という表現があるが、その違いは何か。	まず、社会全体という言葉を使っている場合には、今、国が進めていることもまんなか社会を進めるという考え方の中には、社会全体で子どもの成長を後押ししていくという考え方があるので、広く社会全体というのは、多様な主体がという意味であったり、全ての人々や社会を構成するものが

		という意味合いで使っている。地域全体と いったときには、ある特定の地域——これ が藤沢でいう13地区ということではないに しても、子どもを中心と考えた、その周り の人々がとか、周りの構成体がというよう な意味合いで記載をしている。
36	2045年の姿に「地域全体で子ども・若者 の成長を後押し」と書いてある。これか ら子どもを地域で育てるという考えの 下、コミュニティ・スクールであつたり、 地域の方々にもっと学校、教育に関 わっていただけるというような方向に 向かうということでもいいか。	基本的には、そういった方向で進めていき たいと考えているが、この場合の地域とい う捉えは人によって様々であると思ってい るので、コミュニティ・スクール（学校運営 協議会）における地域ということと、い わゆる地域づくりの地域は、きちっと使い 分けをしたい。コミュニティ・スクールは、 あくまでも学校運営に地域の方が参画を し、地域の中でどんな子どもたちを育てよ うという視点で地域と使っている。一方で、 社会教育法の中では、地域学校協働本部と いうことで、学校を起点とした地域づくり のため、あくまでも地域づくりがメインで あって、その単位は、小学校であれば35で、 中学校であれば19という中で、藤沢の場合 は、現状では13地区で地域づくりを展開し ているので、コミュニティ・スクールの数 でいう地域と、藤沢市が地域づくりをする 地域というのはしっかり使い分けをする必 要がある。
東木議員		
37	基本目標2について、よく言えば、とて もバランスが取れた内容だが、ちょっ と個性を感じないなというのが率直な 印象だった。藤沢市の歴史の中にあつ て、生涯学習の分野は、公民館や、図書 館、市民オペラなど、大変注目を浴びて きた先進的な取組、あるいは、様々な研 究者から研究対象になったような事業 だと伺っている。藤沢らしさがもっと あったと思うので、もっとそれが前に	藤沢市は、13地区の各市民センター、単 独公民館において、社会教育の活動が充 実して行われてきている。現在、それを 包括するように、個人の学びであつたり、 様々な学びというところにもスポットラ イトを浴びせた中で事業展開を図ってい かなければいけないというところで、社 会教育から今度は生涯学習、という考 え方がある。スポーツ、文化については、 人の心を豊かにするものであると捉えて おり、人それぞれ、

	出ていいのではないか、そのあたりのお考えを伺いたい。それから、少子超高齢社会は、地域づくり、地域共生社会とか、人とのつながりづくりが、大事だと思って一生懸命、地道に努力をしてきているが、自治会にしても、いろんな既存の団体がつながるどころか、崩壊していくというのが現状の大変大きな課題である。そんな中で、音楽や、アート、スポーツといったところに興味を持ち、人が集ってくると、緩やかな人のつながりができるという希望は感じていて、これからの社会の人のつながりづくりのベーシックな分野は生涯学習なのではないかなと個人的な印象を持っている。そんな意味で、もっと強調されてもいいのではないかなと思うが、どう考えるか。	見たり、聞いたり、自分でやったりと様々あるので、我々とする、文化、スポーツ、歴史に接する機会をしっかりと提供することが、将来にわたって市民の豊かな生活につながっていくと考えている。それから、つながりという意味では、今まさに生活・文化拠点の再整備が進んでいるが、その中で、例えば文化に接する方と図書館に行き本を見る方が、全く興味の違う分野が緩やかに接することで、その先で何かがつながっていくということも考えられるし、例えば本を入り口として、次のステップにつながる取組ができるような形で、様々な機会、様々な場所、様々な場面を捉えて、そういうつながりづくりに努められるように、社会教育なり、生涯学習という視点をしっかりと持ちながら、事業展開を図っていきたい。
38	(意見) 地域で皆さんに集まっていたきたいときに、防災訓練とか地域福祉という集まらないが、スポーツ、音楽、コンサートだと出てくる人が多いということがあって、もうちょっと生涯学習の分野をベースにしながらの地域づくりをこれからは考えていったほうがいいのではないかと考え、藤沢市のこの計画の中にも盛り込んでほしい。スポーツに関しては、場所がないということがとても大きい。せっかく都市宣言された、そして、オリンピックが終わってスポーツできる環境がこんなに増えたというのを期待したと思うが、特に増えていない。あともう一つは、市民会館の建て替えで——市民オペラはもうすぐだが、大変すばらしいアーティストが出演されるといろんな分野から注目	意見のため回答なし 生涯学習部

	を集めていると伺っている。ふだん、関わったことがない、見たことがない人たちが興味を持てるチャンスだと思うし、建物が建つということは大変大きな影響力があるので、これを機会に、心豊かな、心つながる取組を期待させていただきたい。	
有賀議員		
39	基本目標1について、先日行われた石破首相の所信表明演説の中で、全ての避難所に国際基準のスフィア基準を適用する考えが示された。以前、スフィア基準の達成の実現は困難だという議会答弁で止まっているが、まずは国と本市のギャップが生じたということについての受け止め方を聞きたい。	先般、首相から発言のあったスフィア基準は避難所の環境衛生等の向上が目的であり、多種多様なものがある。例えば本市で言うと、避難施設の面積については限りがある部分と想定避難者数との乖離幅が非常にあるので、1人当たりの面積を増やすことは難しいことを答弁した。一方で、避難施設の1人当たりのトイレの数は、財源が必要になるが、避難スペースよりも整備ができると思っており、やれるところから国際的基準に近づけていく取組は、この指針の中に細かくは記載していないが、強靱化を図る中で、検討していきたい。
40	避難所の面積を増やす必要性の認識に関しては、公共施設や民間施設に対する働きかけを行うというところでお示しいただいたが、面積を増やすことは、全市で取り組んでいかなければ達成できない。本指針は最上位計画ではないと言いながらも、先日、特別委員会で第4次藤沢市公共施設再整備プラン（素案）について議論する中でも、公共施設の有効活用については、本指針で取り上げなければ、面積の拡大というのは、再整備プラン、特に有効活用のフローの中で反映していけないと思っている。本指針で、スフィア基準も踏まえて有効活用について取り上げる考えはないのか。	いろいろなところに目標を掲げていかないと達成できない点は、検討しているところである。一方で、総合指針については、その他の行政計画等の指針になる部分なので、基本目標1の長期課題の中に、避難対応等を含めて、災害に強くてしなやかな安全・安心なまちをつくるというテーマの下、強靱化を表現している。国土強靱化基本法や当該ガイドラインに基づく国土強靱化地域計画は、法令の中では、総合指針と並行して取り組むべきもの、整合、調和を図るものという位置づけなので、今定例会総務常任委員会で報告する国土強靱化地域計画の中には、当然、災害時の避難環境の向上を図る施策を位置づけ、そちらの中で取り組んでいくというのが現在の方針である。

41	強靱化の法律と調和というのは、総合計画ではなかったと思うが、総合指針でもあるのか。	法令の改正で、総合計画の市町村の作成義務づけが総合指針でもいいとなって以降、国土強靱化地域計画のガイドラインの中でも、市の全体的な指針となる計画や方針との整合、調和を図ると読み取れるし、説明会の中でも伺っているので、前回作成した令和4年の第1期の国土強靱化地域計画の位置づけの中にも、総合指針と整合、調和を図るものとして説明をしている。
----	--	---

ステージ3

柳沢議員		
42	基本目標5やまちづくりテーマ2に関連して、高齢者福祉の部分が全体的にも非常に弱い。子どものところはそれなりのボリュームを持って、また、基本目標にも掲げているが、高齢者については非常に冷たいと言ってもいいような感じを受けている。基本目標5の長期課題の一番上の文章などは、まさに高齢者には希望がないというような書き方に思える。高齢者の受け止めについて、事務事業の見直しの33事業の問題だとか、今年に入っても、はり・きゅう・マッサージ券の見直し、廃止の方針、ふれあい入浴券の見直し、こういうことがずっと続いてきている。これからの藤沢の未来を掲げる2028の中でも、こういう見方をしていくのかどうか、まず高齢者に対しての考え方をお聞かせいただきたい。	記載の書きぶりの中での高齢者の部分が弱いことについて、福祉部としては、もちろん高齢者も含め、子どもから障がいのある方、あるいは、生活困窮の方、全ての方を対象として施策を進めていかなければいけないので、トータル的な書きぶりをしているところがあり、そういう意味では、高齢者にフォーカスを当てている部分では弱いということは理解いただきたい。高齢者の施策の部分では、これまで藤沢市では、福祉の充実に非常に取り組んできたと認識をしている。ただ、今後の高齢者の増加、超高齢社会を考えると、これまで行ってきた施策をこれまでどおり行うことが、限られた財源、税収の中で実施をしていく中で、事業の選択と集中なども考えながら、より市民の多くの方に望まれる事業とは何なのかを考え、実施をしていかなければいけないと考えている。そういう意味で、今後、そういったことをしっかり念頭に置きながら、福祉政策を進めたいと考えている。
43	(意見) 全体にフォーカスを当てた形になっているという話だが、まちづくりテーマ2のところも同じような口調の書き方	意見のため回答なし

	で、テーマそのものは「誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる」と何かいいような気がするが、「支えあう」というところに中心を当てている。自助努力を求めている。この文章の中にも終わりのほうに「地域における顔の見える関係をベースとした支えあいの地域づくりの取組及び身近な場所での相談支援体制構築と、健康増進などの自助の活動を支える環境づくり」と自助が最初である。今まで日本の社会を支えてきた高齢者の皆さんが生き生きと長生きできて、高齢期を過ごしていられるというような、それなりに希望の持てるような社会を描いていないと思う。これが、様々な高齢者施策が削減をされている考え方が原因になっていると思っている。どこを大事にしていくのか基本の問題に立ち返っていただきたい。	
神尾議員		
44	(意見) 多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める、の人権について、ジェンダー平等の促進には、女性のエンパワーメントの推進が欠かせないと思っている。しかしながら、今回の指針を見ても、女性に対する記述がない。現在、本市は女性支援計画の策定に向けて進めているところだと思うが、その土台となる女性の暮らしに関する市民意識調査は今年の夏に行われたと聞いている。その中には、家事や育児、介護、就労と幅広く生活面に困難を抱える女性たちがいることも浮き彫りになったということだった。それを踏まえると、不平等さ、格差が根底にあるこの社会	意見のため回答なし

	構造を変えていくためにも、ジェンダー平等の促進には、女性のエンパワメントという、個人としても、社会集団としても、女性が意思決定の場に参画して、自立的な力をつけていく視点も必要なのではないか。SDGsの中でも、女性のエンパワメントについて触れられているので、今回の指針にも記述をしていただきたい。	
原田議員		
45	基本目標6には、雇用の問題、人手不足、人材不足に対応するということも明記されている。今後、「市民の多様な働き方を支える環境づくりを促進していく」とあるわけだが、先ほど言われた職住近接というワードがどのようにリンクをして、どういう中で発言されたのか、もう少し説明いただきたい。	職住近接は、地元を活性化していくという視点で申し上げた。特に少子化対策からの流れで申し上げたが、若い人たちの所得を上げられるような地域、環境、経済状況をつくっていくのは自治体の一つの使命でもあるし、地元の中で職業をつくったり、やりたいことができるまちを実現していく一つの手法として、住まいと職業が近いところになれば、地元の活力にもつながるのではないかという視点がある。それと、行政サービスについても、共創という考え方を次年度より入れていくので、地域の様々なステークホルダーや、様々な方たちと課題を設定して、解決をして、その好循環をつくり上げていく。その中で、共創を、地域の関係性の在り方、地域社会のつくり方みたいな形で取り組んでいきたいと思っている。そういった意味では、共創と職住近接はかなり親和性が高いという趣旨で考えている。
46	いろいろな人材の確保策が民間も含めてあるが、非常に短期的な需要と供給を即席でつくるのが進むと、闇バイトみたいなところにつながりかねない。職住近接の下で人材育成をしていくという視点を担い手不足、人材不足への対応にとどまらず、一歩踏み出し	地域経済の流れは確かにそのとおりで、事業者と連携をしながら、必要な部分に人材を確保していくし、育成についても一緒になって取り組んでいくということが前提になる。担い手不足、人材不足への対応の中で、具体的はこれから進めていくが、現時点では、テクノロジーの活用など、多様な

	て、どう育成していくか、その環境づくりのために市は何ができるかを戦略的に持つ必要があるのではないか。地域経済を循環させるところでは、雇用の問題、人材課題にはあまり触れていないが、それらを含めて聞きたい。	手法による解決を考えている。いろんなステークホルダーとの連携はもちろんのこと、今進んでいる複業も実証実験で取り組んでいるが、そういった人材の活用を図りながら、人材をすぐに受け入れられる体制づくりや、そこに参加される人がどのように育成されて、スキルアップしていくのかも検討していきたい。
47	基本目標 8 では、住民生活において、高齢者が困難を抱えたり、課題を抱えたときに、最初の受皿となる地域の中の一歩の現場の主体は自治会だったりするが、「市民生活に根ざした取組」といっても、「自治会加入率は低下する傾向にあり」この傾向はそのままずっと進んでいる。ここを末端の住民サービス、市民サービスの受け手として、今後も自治会の在り方をこのまま放置していくのか。自治会は任意の団体で、任意だと言ってしまえば、それまでだが、社会課題に一番直接的に関わる地域の組織がこれだけ衰退をしていく中で、そこにどう手を打つのか、どういう共創が可能なのかを考える必要がある。防災のことでも、中学生たちが自治会と一緒に防災の課題に取り組むなどがもたらす効果を一番の小地域の単位にどう作用、どう再生していくのかも、市として、任意団体ということにとどまらず、方針を持っていくべきではないか。 13地区があまりにも広過ぎて課題対応できないということは、これまでも言ってきたが、自治会をこのまま延命させていくのか、自治会をどう再生することが可能なのか、何かしらのビジョンを持つべきだと思うが、考えを聞きたい。	自治会、地域のコミュニティの課題ということになると思うが、加入率自体は低下の傾向である。また、高齢化によって役員の成り手がいないなど、大きな課題を抱えた取組と捉えている。その中で何ができるのかに関しては、これまでの枠組みで尽力されてきた地域の方々には敬意を表する必要性はあるが、コミュニティというものについて考えたときに、コミュニティ自体を1つに集約するのはそろそろ難しいという話も聞いたところである。SNSの世界でつながっているのもコミュニティという言い方をする中で、何を、どう使って、それらをコミュニティ化していくのか。課題解決は、地域の中だけではなくて、例えば関係人口、藤沢のことを非常に気にされている方々をどう取り込んで、地域の課題の解決につなげていくのか、様々な横軸のつながりをしっかりと研究をしていかなければいけないと感じている。例えば、リアルな世界とバーチャルな世界、デジタルツインみたいな形の取組など、様々なことを考えた上で、自治会、一番小さな地域を守っていただいている方々をどう守っていくかということも含めて、今後はやっていかななくてはならないと思っている。何をやるのかについては、今後、検討したいが、まずは今日の段階では、問題意識を持ちながら、大きな課題に対してチャレンジしていきたい。

48	(意見) 地域コミュニティの再生など、何のために共創するのかは、社会課題があって、その解決のためには力を合わせなければできないというテーマ設定がすごく大事だと思っている。市民の皆さん、若い人たちほど、社会課題に対する認識を持っている。市の部局の垣根を越え、様々な企業、NPO、町内会ともテーマ設定をしていく際に、社会課題の解決ということをもっと意識する必要があるのではないか。そういうものが共創デザインとして描けていない中で、市役所だけが小さくなるのは、高齢者や未来のある子どもたちにとって希望を感じることは難しい。小さな市役所を目指すというからには、共創パートナーの活動が地域を支えていくというようなイメージが持てるように、ぜひ表現をしていただきたい。	意見のため回答なし
49	災害復興は表記できても、災害関連死や、二次災害をどう防いでいくかには言及できなかったのも、高齢者及び地域包括ケアの中で、災害時にも誰も取り残さない藤沢市を進めることになるのかを、災害時に不断の地域包括ケアシステムが機能していくんだという、BCPの関係をもう少し意識した総合指針であっていいのではないかな。	大変難しい質問と受け止めているが、これからの行政、特に福祉施策は、様々な地域課題が非常に複雑化、複合化していくので、行政だけでは担えない部分が増えると思っている。行政が担うべきサービスをしっかりと進めていかなければいけない。これはどんな時代になっても揺るぎないことである。その上で、自助、互助、共助といった活動を我々が支援し、総合的に地域福祉を推進し、地域中心の支え合いの地域づくりを進めていかなければいけないと思っているので、行政の取組をしっかりと捉えながら進めていきたい。
50	13地区のくくりではなくて、これから中学校区、小学校区を行政単位として意識せざるを得ないと改めて思っている。学校がハブになり、地域の子ども	地域を回っていると、やはり13地区で考えられている方が大多数である。その中で、地域による特性はそれぞれ異なると説明することは、交流や、大き過ぎる場合は、小規

	にとってのよりどころにとどまらない、地域づくりの中で公共財産として、今後、その在り方がより柔軟に進化できる準備があるのか聞きたい。	模な集まりでカバーするなどを考えるきっかけになると思っている。また、学校を核とした地域づくりという表現をしている中で、多様なステークホルダーの中には、学校があると認識している。そういった方々がつながる地域づくりとして、市民センターが中心になって、旗振りをしたり、いろんな場をつくっていくことが進む形で記載している。
石井議員		
51	基本目標 6 について、どんな企業を誘致し、どんな企業、産業を伸ばしていく、スタートアップ支援をしていく想定があるのかお伺いしたい。	企業誘致については、研究開発関係の事業者等を誘致するという基本的な考え方はある。ただ、市内にもいろんな土地があり、藤沢に行きたいという企業もいっぱいいるが、実態としては、誘致できる適当な土地が不足している状況であり、新たな土地への誘致については、そういう考えである。
52	特に大学とのつながりもある中で、また、「市民の多様な働き方を支える環境づくりを促進していく」と書いてあるとおり、いろんな企業が進出してくる中にローカルゼブラに関連した企業もどんどん誘致をして、地域を一緒につくっていくパートナーに連結していくと非常にスムーズになるのかなと思うが、考え方について伺いたい。	ローカルゼブラ——日本語で言うと、地域貢献もしながら事業活動を行う企業という定義で解釈しているが、そうした企業が来ていただくことは有利だと思っている。その点も踏まえての企業誘致に取り組みたい。
53	この指針には、ビッグデータ、AI 社会に対応しながら——これは総合指針 2024 にも書いてあるので、次のステージに進むと期待をしているが、これはデジタル技術を使った、地域通貨、地域ポイントの導入も視野に入っているのか。ぜひ地域通貨、地域ポイントの活用が進めばよい。	それらも含めて、これから新しい技術を市民が活用する上で、市の支援策を検討したい。
54	基本目標 8 について、「13 地区それぞれの地域において」と「市民センターが中心となり」の 2 つの丸ポチが離れてい	13 地区と市民センターを中心にとというのは同じ意味になるので、事務局側と調整をさせていただいて、表記については検討した

	る。市民センターごとが13地区だと考えたときに、13地区と市民センター中心は一体と思うが、今後も市民センターと13地区というのは一体となった活動を行っていくのか。	い。 市民自治部（58 と合わせて）
55	これからデジタル市役所が進んでくる中で、市民センターの村岡と藤沢がセンター機能のデジタル化を進めていくと聞いているが、13地区全域にもデジタル市役所化が進む予定か。	13地区への展開は、今後検討していく。マイナンバーカードの普及が進めば、行かない窓口になったり、既にかかない窓口については全市民センターに導入しているので、デジタルツールの活用によって、もっと進めていけるような方向性はある。
56	デジタル化が進むと、今後、さらに職員の数も減ると思う。そうなったときに、本庁の数を減らしていくのか、それとも、13地区の人を減らしていくのか。長期的な課題の中で、どちらを主体として、これから地域づくりをしていくのか。	デジタル化が進むことで手続自体が減るので、今までの市民センターの役割から、地域づくりへの役割にどんどんシフトしていく必要性が当然出る。バックオフィスとしての本庁機能をしっかりとした上で、地域でこういった業務ができるか、地域の活動を活発にすることや、相談体制の強化など、13地区の地域の特性に応じた施策をしっかりと進めていくものと考えている。
57	長期的に考えれば、市民センター機能が変わっていくことを今お答えしていると認識しているのか。	今後、研究、検討を重ねた上で、必要性があれば、センターの機能自体がそもそも今と同じでいいのかも含めて、検討していかざるを得ないと考えている。
58	自治会・町内会の集いに伺い、コミュニティの希薄化について学んだ。コミュニティの希薄化というよりは、コミュニティの多様化と記載をし直したほうがいいと思うので、検討をお願いしたい。また、居場所づくりや活動拠点が公共施設の複合化や廃止によって減ってきているという声を聞いている。居場所づくり、活動拠点づくりについてどのように考えているのか。	確かに公共施設再整備基本方針の中では、基本的な考え方として、施設を複合化する視点を設けている。ただ、その方針に従い、単純に減らしていくことも課題がある。コミュニティ、居場所については、分かりやすい場がなくなるとすれば、代替する何らかの機能的な場面や、集える場などを生み出していくことは当然考えなければいけないことを前提にしっかりと議論をしていくべきと思っている。

『(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028 (改定素案「第1章 基本方針」まで)』のパブリックコメントの実施結果について

『(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028 (改定素案「第1章 基本方針」まで)』のパブリックコメント(市民意見公募)の実施結果について、次のとおり本市の意見を付して公表します。いただいたご意見については、「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028」の策定のみならず、各部局において取組の参考とさせていただきます。貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

1 件名

『(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028 (改定素案「第1章 基本方針」まで)』

2 実施期間

2024年(令和6年)10月18日(金)から11月18日(月)まで

3 提出状況

(1) 提出者数 7人、1団体

(2) 提出された意見の数 181件

(3) 意見の内訳

区 分	分 類	件 数	割 合
基本方針	まちづくりコンセプト	3	1.7%
	基本目標1 安全・安心なまちをつくる	4	2.2%
	基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	3	1.7%
	基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	51	28.2%
	基本目標4 子どもの笑顔があふれるまちをつくる	35	19.3%
	基本目標5 誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる	11	6.1%
	基本目標6 地域経済を循環させる	24	13.3%
	基本目標7 都市基盤を充実する	38	21.0%
	基本目標8 多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める	7	3.9%
その他	その他	5	2.8%
合 計		181	100.0%

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

4 意見等の反映状況

区 分		件数	割合
①	計画に反映（一部反映）させる意見		
②	すでに計画に位置づけられている意見		
③	今後の取組の参考とする意見		
④	その他の意見（①～③にあてはまらないもの）		
計			

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

5 意見の概要及び市の考え方

別紙のとおり

以 上

お問い合わせ先 藤沢市企画政策部企画政策課
〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8436
e-mail fj-kikaku@city.fujisawa.lg.jp

No.	意見の概要	市の考え方	区分
まちづくりコンセプト			
1	地球温暖化対策を進めることが「サステナブル藤沢」に不可欠であるとの思いから意見を提出する。2030年に温室効果ガスを半減させるためには、今まで力点が置かれていなかった「建築物の断熱」対策を進める視点からの記載を希望する。この点はコンセプト2の誰も取り残さない視点（建築物は全ての市民に不可欠）に反映させることを希望する。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
2	まちづくりコンセプト1「藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち」（サステナブル藤沢）について、将来世代のニーズも満たすものであるかどうかの記載があるが、「気候危機対策が充実している」や「脱炭素の取組が進んでいて」など、気候変動に関連した取組を進めることを記載していただきたい。既に藤沢市は気候変動対策を進めようと動いているので、コンセプトにも入れてほしい。	反映をお願いしたい。	
基本目標1 安全・安心なまちをつくる			
3	長期課題では気候変動に触れられているが「2045年の姿」には反映されていないので、気候危機の危機感の共有と適応策の視点を入れてほしい。	基本目標3の記述もふまえて検討が必要と考えている。	
4	2045年の藤沢市の姿として、の部分に、課題にも挙げられている気候危機対策として、防災の観点から避難所として利用	基本目標4の記述もふまえて検討が必要と考えている。	

	される体育館などの公共施設の断熱化が進んでいることを挙げていただきたい。気候危機の危機感の共有と適応策の視点も含めてほしい。		
5	災害時のペットとの避難に対する不安がある。犬猫がいるのでスムーズに動けるのかを懸念している。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
基本目標 2 文化・スポーツを盛んにする			
6	美術館や博物館がない。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 文化芸術活動を支える環境・拠点の整備における取組の参考とさせていただきます。	③
7	大きな音を出せるような場所がない。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 文化芸術活動を支える環境・拠点の整備における取組の参考とさせていただきます。	③
8	古い建物を残していきたい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 2 に文化財や歴史に関する取組について、歴史	②

		を感じ、学び、伝えていく環境を整えると記述しております。	
基本目標 3 自然を守り豊かな環境をつくる			
9	マイクロプラスチックごみ排出の原因になる可能性があるため、人工芝をやめてほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
10	駅周辺に集まっているムクドリについて、いてほしいけれど、少し多すぎると感じている。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
11	地球温暖化に関する課題について、気候危機は大雨や台風などの局地的な気象異常だけでなく、農産物や海産物への影響、また猛暑が与える健康への悪影響など、今や私たちの命にかかわる問題となり、深刻化している。長期課題とはなっているが、短期的にも早急な対策を求める。	ご意見の趣旨を素案に位置づけています。 重点方針として、「長期的な視点」を踏まえ、喫緊に取り組む重点課題を抽出、整理し、「まちづくりテーマ」として設定する中で、取り組んでまいります。	②

12	他地域に先駆けて「再エネ促進区域」制度を進めた藤沢市を評価している。藤沢市全域（江の島以外）を「再エネ促進区域」とすることに賛成している。計画をより効果的にしたいので、「建物の断熱性能」についても建築士から建築主への説明義務になると、より一層藤沢市の温室効果ガス削減につながるので、説明内容を追加してほしい。また、建築士が説明後、どのように市に報告をするのか。報告体制が整っていないか、制度化されていないと、実施者が少なくなる懸念があるので、報告制度を設けるようにしていただきたい。再生可能エネルギーのポテンシャルのほとんどが太陽光発電で、特に屋根置き太陽光発電であることを知るきっかけになれば検討者増につながるかもしれないので、説明内容に、藤沢市がなぜ再生可能エネルギーを増やす必要があるのかの根拠も含めていただきたい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 建築物再生可能エネルギー利用促進に関しては、今年度作成している「藤沢市建築物再生可能エネルギー利用促進計画」において・・・・・・していく方針となっております。	③
13	長期課題では気候変動に触れられているが「2045年の姿」には反映されていないので、地球温暖化対策を強化することを記載するとともに、ごみ減量もサーキュラーエコノミーの視点で記載してほしい。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
14	課題にはあげられているが、2045年の藤沢市の姿に記載されていない、ごみの削減も入れていただきたい。また、気候危機対策をさらに推進することも含めてほしい。	反映の有無について検討をお願いしたい。	

15	自宅で省エネしたいが方法がわからないため、情報発信を強化してほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
16	量り売りしたりするエコなお店が各地域に身近にあるとよい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
17	海岸のごみ箱がなくなってしまう、困っている。海岸に多くのごみが流れ着いている。	一部について、ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 基本目標３において、海岸の美化活動を推進する趣旨を記述しております。海岸のごみ箱設置においては、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。なお、夏季の海水浴場設置期間中は一部区域でごみ箱を設置しています。	②

18	料理をするとプラスチックがたくさんでる。スーパーで売られている商品はプラスチック包装が多く、買い物をするとプラスチックが多く目につく。個包装などの見直しなど検討できないか。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 本市では「かながわプラスチックごみゼロ宣言」に賛同し、マイバッグやマイボトルの推進等によりプラスチックごみ削減に取り組んでいるところであり、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
19	給水スポットが少ないので、もっとほしい。各駅に給水スポットを置くなどを検討してほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 本市では「かながわプラスチックごみゼロ宣言」に賛同し、マイバッグやマイボトルの推進等によりプラスチックごみ削減に取り組んでいるところであり、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③

20	マイボトル割が各地域にあると環境への配慮にもなるし、意識が高まるのではないかな。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 本市では「かながわプラスチックごみゼロ宣言」に賛同し、マイバッグやマイボトルの推進等によりプラスチックごみ削減に取り組んでいるところであり、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
21	畑に大きなごみを捨てていく人がいるので取り締まってほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 本市では、不法投棄が行われやすい場所への市職員によるパトロールや不法投棄防止看板の設置等を行い、不法投棄防止に努めており、引き続き取り組んでまいります。	③
22	缶のごみがたまりがちになったり、ごみ出しが間に合わない、食材を余らせてしまっている。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
23	夏が長く暑くなっている。学校の教室もとても暑いし、公園も暑くて外に出られず、暑すぎて外で遊んでおいでと言いつらい環境になっている。暑すぎて夏休みを全力で楽しめなかったとの声があるなど、子ども	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 気候危機への対策を行うことについて、基本目標	②

	も困っている。また、猛暑でペットのいる家は冷房必須（適温 25℃）のため、光熱費が高くてペットもその家庭も困っている。気候変動の取組を真剣にしてほしい。	3において、記述をしています。	
24	ふんのにおいがくさい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
基本目標 4 子どもの笑顔があふれるまちをつくる			
25	子どもが生き生きと活動するためにも猛暑対策（学校の断熱、夏の遊び場の確保）は不可欠であり、その視点からの記載をしてほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
26	2045年の藤沢市の姿として、夏に暑すぎて外で遊べない子どもたちがこれからますます増えることが考えられるため、そのための対策を講じることも含めてほしい。例えば学校環境の改善（断熱性能の強化、学校の屋根置き太陽光発電の推進）も挙げられる。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
27	制服が高い。みんなで使うなど、工夫が出来るか。お金がないから本がたくさん買えない、学費をもっと安くしてほしいなどの意見も聞くので、余裕がない人が増えているのではないかな。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 において子どもの貧	②

		困の解消の記述をしています。	
28	中学校の校則が多くて過ごしにくい。 給食の牛乳が断りにくい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
29	学校にいけない子がマイノリティであるように感じる雰囲気を改善してほしい。不登校が心配になる。 また、小学校に行くのにためらっている娘がいるが、学校を休むと家に人がいないため、一日中一人にさせてしまうことに困っている。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
30	病児保育が少ない。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
31	子どもたちに安全な給食、オーガニック給食を食べさせてあげたい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等	③

		の参考とさせていただきます。	
32	子どもを土日に預かってくれるところが近くに欲しい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
33	子どもと過ごせる室内施設がもっとほしい。小さい子連れで行ける飲食店や温泉施設が少ない。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
34	学校教育に卓上教育は必要なのか。教育制度についても一度見直してほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
35	少子化対策にもなると思うので双子は歓迎だが、スーパーのレジの場など、双子ベビーカーが通れずいけない場所が多いので、環境を改善する策を検討してほしい。多胎育児への支援が少なく感じる。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②

36	子育ての大変さを理解して、必要な支援をしてほしい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
37	学校の授業がつまらなそうに感じる。子どもたちにわかりやすく、意欲的に取り組めるように授業の内容などを工夫してほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
38	中学校給食のデリバリー式弁当が美味しくない。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
39	1 人親の相談やフォローの場が必要と感じている。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 4 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
40	学生が駅の近くで休める涼しい場所がもっとほしい。みんなで集まれる居場所が少ない。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 個別具体的な取組は記述しておりませんが、子どもの居場所の重要性については認識しており、分野別個別計画の策定等の参	③

		考とさせていただきます。	
基本目標 5 誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる			
41	年をとっても安心して暮らせるまちにしたい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 5 の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
42	ケアのサービスの人に対して正当な評価に至っていないと感じる。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
43	「かわいそう」「特別扱い」しない世界がいい。みんなが同じじゃないと駄目な感じがあり、基準をつくりすぎているのではないかな。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 まちづくりコンセプト 2 や、基本目標 4 において、一人一人の多様性や個性を尊重するまちづくりを目指すとしています。	③
44	時間がない、健康面など、1人1人の状況が異なっていることはあるが、助け合える環境が出来ていない。また、子どもがいないと地域に入れない感覚がある。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。	③

		分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	
基本目標 6 地域経済を循環させる			
45	課題には脱炭素化について触れられているので、2045年の藤沢市の姿に「エネルギーの脱炭素化」「サーキュラーエコノミーの推進」を含めてほしい。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
46	エネルギーの脱炭素化、サーキュラーエコノミーの推進は、2045年目標の藤沢経済には不可欠であり、その視点からの記載をしてほしい。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
47	人手が足りていないことや、給料が安いという状況を認識してほしい。 また、仕事で横のつながりを広げたり、自分で仕事を探したいという希望を叶えるような施策を展開してほしい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、人手不足や人材育成に関する重要性を認識しており、基本目標6の中にご意見の趣旨を記述しております。	②
48	本屋が少ない。 スーパーはあるが、買い物したい店が少ない。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標6の中に商店街の発展や商業集積の推進など、ご意見の趣旨を記述しております。	②

49	マンションなので野菜を作れないが、有機野菜を近くで買えない。有機野菜を買うところがもっとほしい。 お米が美味しいが、買うことが出来ない。なぜお米が買えないのか。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 基本目標6において、都市農業を守り育てる内容については、記述をしているところですが、具体的な取組も含めて、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
50	光熱費や様々なものの値段が高すぎて、遊ぶのにもお金がかかる。野菜が高い。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
51	レストランや食堂など、ご飯を食べるところが混んでいる。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
52	藤沢の北部は藤沢市と知られていないので、北部の情報発信を強化したり、魅力の発掘をしてほしい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標6においてご意見の趣旨を記述しております。	②
基本目標7 都市基盤を充実する			
53	脱炭素化社会の構築には、建築物の省エネ化は不可欠であり、その視点からの記載をしてほしい。	反映の有無について検討をお願いしたい。	
54	2045年の藤沢市の姿に、再整備の際には「断熱性能の強化」「再生可能エネルギーの設置」を推進することが必須だと思うため、脱炭素社会を実現するために、記載をお願いしたい。また、住みやすい（自	反映の有無について検討をお願いしたい。	

	転車や徒歩で生活が可能になるような)コンパクトシティの実現をお願いしたい。		
55	北部開発を基本方針にしないでほしい。北部には、のどかな田畑や残された僅かな自然があり、それが北部の良さだと思い住んでいる。開発、区画整理、地下鉄計画は今一度立ち止まり、持続可能な都市とは開発が発展とイコールなのかの検討をふまえた基本指針にしてほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 都市的土地利用と自然的土地利用を一体的に捉えた持続可能なまちづくりを進め、保全すべき自然空間は今後も保全する考え方で取り組んでまいります。	③
56	藤沢北部の農地を潰しての開発は反対する。地下鉄を通すのも反対。地下を掘るコストをかけるよりも、既存のバスの本数を増やす事の方が余計な予算はかからないと思うが、どのような考えか。人口が減少傾向だと言っているのに無駄なインフラを整える必要はない。住みやすい街づくりは利便性だけでなく、自然環境があつてこそだと考える。都内の様にコンクリートジャングルにする必要はなく、独自の発展方法をしてほしい。一次産業を軽視しているとした考えられない。農地を潰し、生産性のないインフラを整える必要はない。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 都市的土地利用と自然的土地利用を一体的に捉えた持続可能なまちづくりを進め、保全すべき自然空間は今後も保全する考え方で取り組んでまいります。	③
57	街中にチェーン店が多く同じ店ばかりであり、景観への影響や健康面でも懸念がある。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④

58	街路樹が切られて木陰が減ってしまい、夏に出歩くときなど暑くて健康面に影響がある。公園に日影がなくてつらい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
59	緑の広場があるとよい。公園が少ないと感じる。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
60	夏が暑すぎて公園で遊べない。夏でも遊べる環境の整備など検討してほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
61	公園の広場に犬が入れないところが増えている。 子猫がうろうろしている。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 今後の公園の魅力向上、維持管理及び公園整備の際の参考とさせていただきます。	③

62	自転車で走りにくい、歩道が狭い、歩道がななめになっていて歩きづらい、横断歩道の白線が薄い、狭い道が多くてトラックが通ると怖いというえに車の運転が難しいなど、道路に対して困っている。また、駐車場も狭いところが多い。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
63	駐輪場が少ない。駅まで送ることになってしまう。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 7 の中に自転車活用の促進として、ご意見の趣旨を記述しております。	②
64	道路が混んでいる。土日などのテラスモール渋滞がひどすぎて北部へ向かいづらい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 7 の中にご意見の趣旨に沿った対応内容を記述しております。	②
65	朝、道が混んでてバスが遅れるので、もっとバスの本数を増やしてほしい。バスの便が少なくなってしまった。バス停に標識柱しかない。	一部について、ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、公共交通の維持については、基本目標 7 の中にご意見の趣旨に沿った対応内容を	②

		記述しております。その他の意見については、分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	
66	公共交通機関が不便である。海側の東西を移動する公共交通機関がない。また、子どもと公共交通機関や街中で安心して過ごせる雰囲気がほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③
67	レンタサイクルがあったらよい。移動したいが、いつも駅近ばかりになってしまう。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 7 の中に誰もが移動しやすい交通の充実など、ご意見の趣旨を記述しております。	②
68	駐車場（パーキング）が高い。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
69	移動しやすい公共交通機関や道路の整備をしてほしい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 7 の中に誰もが移動し	②

		やすい交通の充実など、 ご意見の趣旨を記述して おります。	
基本目標 8 多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める			
70	2045年の藤沢市の姿として、市民、行政、企業、学校などが交流できるようなプラットフォーム（現時点であるものを強化し推進するのでもよい）の活発化を推進していただきたい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 8 においてご意見の趣旨を記述しております。	②
71	隣人との関係が築きにくいと感じている。 人が集まりやすい場所が少ない。街の人と気軽に話す場がない。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 個別具体の取組は記述しておりませんが、基本目標 8 においてご意見の趣旨を記述しております。	②
72	行政の情報が難しくて見る気がしない。わかりやすい情報発信に努めてほしい。	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。 分野別個別計画の策定等の参考とさせていただきます。	③

73	市民が参加できる生涯学習の企画をもっと充実してほしい。	ご意見の趣旨をすでに素案に位置づけています。 市民が参加できる生涯学習の機会の充実として、基本目標８に、あらゆる人々が社会に参画することができるよう学べる機会の充実を図ることを記述しております。	②
その他			
74	鎌倉市はボールを使える公園が少ない。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
75	海老名市に児童館があればよい。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
76	軍事費が増えている。また、税金が高すぎると感じる。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④
77	ふじきゅんタウン。	ご意見として受け止めさせていただきます。	④

以 上

13 地区郷土づくり推進会議等からの意見聴取の状況

新たな市政運営の総合指針の策定にあたり、13地区において、郷土づくり推進会議委員を中心に、20年後の藤沢市の姿及び直近4年間に最も重点的に取り組むべきことについて意見交換・アンケート調査を行っています。

いただいているご意見は次のとおりです。

1 実施期間

2024年（令和6年）10月10日（木）から12月20日（金）まで
（意見提出は2025年（令和6年）1月17日（金）まで）

2 意見の状況（12月20日現在）

（1）「20年後の藤沢市の姿」に関する意見

意見者数 ○人 意見の数 ○件

（2）「直近4年間の重点取組」に関する意見

意見者数 ○人 意見の数 ○件

（3）「（仮称）藤沢市市政運営の総合指針2028」への意見

意見者数 ○人 意見の数 ○件

3 意見について（12月20日現在）

（1）意見の概要

※意見については、次の区分に分けて、集計予定です。

区分	基本目標
（1）	安全・安心なまちをつくる
（2）	文化・スポーツを盛んにする
（3）	自然を守り豊かな環境をつくる
（4）	子どもたちの笑顔があふれるまちをつくる
（5）	誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる
（6）	地域経済を循環させる
（7）	都市基盤を充実する
（8）	多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める
（9）	その他

※意見の概要には、アンケートのほか、意見交換当日にいただいたご意見も含み

①（黄色）は、反映の有無を含めて、検討したほうがいいのではないかと考えた箇所。
水色は、事務局として対応した方がいいと考える箇所。

ます。

※市の考え方について、次のとおり整理しています。

①検討が必要で、反映の有無について考え方を明らかにしたい。

②すでに指針（素案）に内容に関する記述あり

③指針（素案）に記述はないが、市全体への意見として受け止めたい。（具体的な事業への記述のため、指針そのものへの反映は難しいと考えられる意見もここ）

④その他

※12月4日の議員全員協議会の資料以降の意見には*をつけています。

ア アンケート「20年後の藤沢市の姿」への意見

No.	地 区	20年後の藤沢市の姿 (一部要約)		市の考え方
1	六会	・子どもから高齢者までが助けあい、共生、共助のまち。(5) ・スマートシティ構想の最先端をいくアナログとデジタルの融合されたまち。(8)		② ②
2	六会	・何やるにしても、地域経済を活性化しなければ、やりたい施策があっても財源がなくできない。経済を成長させないといけないのではないかな。具体的にどう進めるのかというのを考えないといけない。(6)	*	③
3	六会	・都市拠点とネットワークに示されているように、六会地区は拠点の中間に位置することから、ネットワークのハブ地域の周辺の地域として、農地を基本として緑豊かな土地利用を考慮し、自然との共生を保った地区とするのはどうか。藤沢市の多様な土地利用を考えていただきたい。現在、急激に農地が宅地が変わっている。(7)	*	③
4	片瀬	・今と変わらない姿が望ましい。(9)		③
5	片瀬	・都市マスタープランをしっかりと進めていただきたい。総合指針の基本目標はかなり漠然としていて実感としてわからない。マスタープランをしっかりと実現して、将来像に沿って首都圏、		③

		海外にも誇れるような場所にしてほしい。ヨットハーバーの整備などはあると思うが、海洋リゾートの拠点としてこれまで何が前進したのか。海の家が出来ては壊すの繰り返し。横須賀市は海の周りがかっこよくなっている。年中人がくる雰囲気になっている。藤沢は海、江の島があるだけになっている。(7)		
6	片瀬	・このまま、高齢化が進むであろうが、子どもの声が聞こえる高齢化のまちになることを願う。(9)	*	③
7	明治	・防犯対策などの安心安全な地域を目指す。(1) ・隣人同士挨拶が出来るコミュニケーションでつながる地区になってほしい。(5)		② ②
8	明治	・安全・安心に暮らせる地区になってほしい。(1) ・近所が笑顔で助け合えるようになってほしい。(5)		② ③
9	明治	・温暖で、自然が豊かで地の利を得た利便性があることだけでも大きな魅力を備えた地域だが、住民の強靱な絆と生産、観光等を支える産業立地、スポーツ、文化、芸術といった心の豊かさを育む環境が揃う地域になってほしい。(9)	*	③
10	御所見	・江ノ電の駅とJR、小田急を同一駅ビルに取り込む。(7) ・さいか屋、ビックカメラのビルを撤去、他に移して駅前を広くする。(7) ・パスポートセンターを藤沢市内に移す。(9) ・市役所の駐車場のビル化。(7)		③ ③ ④ ③
11	御所見	・交通(鉄道、道路)の利便性向上。(7)		②
12	御所見	・公園の設置をしてほしい。女坂の公園を40坪くらいのでもよいので作ってほしい。いざとなったときの避難所は小学校かセンターぐらいしかなく、一時避難場所としても利用したい。(7)		③
13	遠藤	・藤沢市は南部の方に予算は使うが北部は後回し		③

		で、下水もいまだに入らない。(3) ・市役所も北部から遠くて北部の方にも市役所が欲しい。(7) ・遠藤には交番がないので交番がほしい。(9) ・遠藤は自然があるというが、何もない所に人が来るわけがない。大きな施設がほしい。(6)		③ ③ ③
14	遠藤	・高齢化が加速しており、又、人口も減少している。将来にわたる都市づくり構想の具体策の検討が急がれる。(7)	*	③
15	遠藤	・健康と文化の森地区のまちづくりが理想の形で進み、人々の交流が盛んな地区となっていてほしい。そのうえで、いずみ野線が延伸してほしい。(7)	*	②
16	長後	・高齢化による不便さが非常に多い。今後さらに高齢化が進んでいく中で早急に手をうつ必要があるのではないか。(5)	*	②
17	長後	・文化都市であると言われているが、40万人規模の自治体なのに博物館がない。何も記載がないと施策をしていないことになる。先日も善行の発掘見学に行ったが、発掘しても展示をする場所がない。物置ばかりつくる印象がある。(2)	*	③
18	長後	・将来的に人口を維持していく施策には、住むだけではなく、産業の誘致も必要ではないか。企業からの税収のキープについても必要ではないか。事業所だけでは意味がない。本社機能を持ってくる必要があるのではないか。(6) ・人口の比率もうまくコントロールするような計画は出来ているのか。どういうまちづくり、環境を整えるのか、計画がないとやりづらいのではないか。(7) ・危惧をしているのが、緑地が減っている印象がある。市の面積に対して緑地キープの目標があればいいのでは。横浜などは市も大きく大規模な緑地があるが、最近の宅地には緑がないことが多く、	*	② ③ ②

		緑地保全をもう少ししないと環境の悪化に繋がるのではないかと。CO2 の排出量とマイナス量を見える化出来たら価値のある取組になる。(3) ・40 万の人口に対するインフラが追い付いておらず、道路が狭いとみんなが思っている。都市マスタープランに入るとは思うが、具体化した計画を実行するまでいかない。将来に対するプランニングが必要だと思う。(7)		③
19	辻堂	・辻堂地区の安心、安全部分での基盤整備について、昭和通りは昭和38年に都市計画が決まったまま、何もされていない。だいぶ建て替えられてきたが、それを待つのか、都市拠点整備として実施するのかなど地域とともに検討したい。(7)	*	③
20	辻堂	・藤沢市は文化施設・スポーツ施設がなく、いろいろなものが流出している気がする。大きな施設もない。(2) ・教育部分についても独自のものがあるわけではない。(4)	*	③ ③
21	辻堂	・藤沢市の中でも人口増で若い世代の人たちが移り住んできているが、昔から住んでいる人たちは高齢化しており、起こるであろう地震に対して不安を皆強く感じている。20年後は地震対策が整い、地元の学校に通い、やりがいをもって地元で働き、高齢者が子どもたちの相手をして、「市」が拡大家族のような姿になればとても素晴らしいと思う。(1)(5)(6)	*	③
22	善行	・国際観光地らしい藤沢駅になるようにJRと共に進め、周辺地域の整備をする。(今の駅は汚くて不便である)(7)		②
23	善行	・年齢を重ねても街歩きが出来るところや、楽しめる場所があり、交通手段もあること。(7)		②
24	善行	・藤沢はどういうイメージでいくのかを見極め、ブランド力を高め、誇りを持てるようにしていきたい。(8)		③

25	善行	・当面の人口減は見込まれないものの、少子高齢化の影響はあるが、生産年齢人口の減少は高齢者人口の増加よりは緩やかなので、早めから十分に備えたい。そのためには福祉、医療などの必要な分野において、分野別に長期的な歳出予想を積み上げて、その総予算の中での裁量的政策額を見込むなどして、重点分野では予算見通しをもった計画にしてはどうか。(9) ・善行地区における人口減が顕著なのは、かつて大規模住宅地、団地が一時期に集中して開発されたからと考える。当時の人口急増を吸収した地域のため、単純な地域問題ではない。市としても、交通網の維持を図り、住宅や土地の流動化を進めるなどして、次世代への転換を支えていくべき。(7)		③ ① 計画建築部
26	善行	・高齢化率が40%を超えようとしている中で、子育ても大事だが高齢者対策もきちんとやってほしい。藤沢市は地域によっては高齢者のまちとなっている。(5) ・市民自治をどのように考え、どこまで課題ととらえて取り組もうとしているのか、市民の意見もふまえて考え方などの説明をしてもらいたい。(8)		② ③
27	善行	・善行地区は商業施設が少ないので、藤沢、湘南台、辻堂等に行くことが多い。平日は交通のアクセスは基本的には問題はないが道幅が狭いところが多い。なので、移動に時間がかかる。また、週末になると交通渋滞がひどく移動がしにくくなり、移動するのを躊躇することもある。交通アクセスに要する時間の短縮を期待する。(7)	*	③
28	善行	・さらに加速する高齢化に対して、自助・共助・公助と互いに連携して一体となった地域を希望する。(5)	*	②

29	湘南大庭	・北部地区の開発と相鉄線の延伸。慶應義塾大学を經由して相模線への接続（倉見駅あたり）、新幹線の駅との接続。（7）		②
30	湘南大庭	・人口減少の傾向もみられるなか、若い人たちにとって魅力のある、住むことによるメリットなどが作りやすいまちづくりが必要。起業したい人たちへの支援活動なども含め、住んでみたいまち藤沢としてもらいたい。（6）		②
31	湘南大庭	・綾瀬市のように住み替え奨励金などの検討をしてほしい。住民は住民として検討を進めるが、公の立場での考え方もあるので、公の立場としての事業展開もしてほしい。（7）		③
32	湘南大庭	・高齢者が生きがい、やりがいを持って働くことのできる社会を実現したい。高齢化が著しい地区であるので、自立した高齢者の割合が多くいてほしい。（5）	*	③
33	湘南大庭	・防災、防犯上安心、安全な地区が実現している。（1） ・少子高齢化が進むのと同様並行して人口の減少も進むが、子育て世代を取り込む施策を講じることにより高齢化率は30%台後半まで改善している。（9） ・多くの元気な高齢者が、様々なボランティア活動に生き生きとして従事している。（8）	*	② ③ ③
34	湘南台	・西側に桐原工業地域、東側にゆめが丘ソラトス（商業施設）に挟まれた湘南台を、スポーツと文化のまちとして活気のあるまちづくりをお願いしたい。湘南台にランドマークとしてプロスポーツを観戦できるような体育館とコンサートが開催できる舞台を併せ持つ施設をつくり、まちの活性化を図りたい。（2）		③
35	湘南台	・市内の階段をエスカレーター、エレベーターに変えて、心と体のバリアフリー化を推進する。（7）		③

36	湘南台	・小動物園の設置。(2) ・緑地の増設。(7) ・倒木の管理徹底。(7)	*	③ ③ ③
37	鵠沼	・特別養護老人ホームを増やしてほしい。民間のホームでは費用が高すぎてとても入所出来ない。介護してくれる職員の給料をもっと上げるべき。(5)		③
38	鵠沼	・古き良き時代の歴史を踏まえながら、新しい文化と共調しながらも、鵠沼の人達が穏やかに、幸せを感じながら過ごす地区であってほしい。結果的に、人口減少は起こらず、高齢化も問題とならず、活気ある多様な人たちが共生する地区であってほしい。(5)		③
39	鵠沼	・鵠沼地区は人口が増えている。市としても総合的には減っているとは言えない状況で、地域の格差をどのように解消していくのか。鵠沼地区では、宅地化が進み、緑が減っており、公園が足りない。どのように平均的にバランスの良い市にしていくのか。(7)		③
40	鵠沼	・調査により、高齢者の増加は明確であるが、コロナ流行時から一人暮らし高齢者の施設入所又は家族同居が増加している。今後は施設入所がすべて可能かどうか、また、本人希望からの自宅暮らしを選択する方が多くなる可能性が強い。そのための支援策が必要であり、高齢者同士の交流促進や、特に在宅医療の充実が欠かせない。(5)	*	②
41	鵠沼	・鵠沼地区は狭い道路が多く、藤沢から辻堂方面に出る道路も大型車が通れない道が多く、以前から奥田線の計画があるが何十年かかってもいまだに先が見えない。大きな災害が発生しても対応できない現状で、安全、安心、都市基盤の充実に道路状況は欠かせない考える。(7)	*	②

		つながりが切れずに課題解決を目指す4年間の取組が出来るとよい。(4)		
45	村岡	・超高齢化や単身世帯が多くなると思うので、地域づくりにつなぐ取組が必要。(5) ・地域包括ケアシステムに力を入れてほしい。地域に温度差がある。(5)	② ②	
46	村岡	・自然があり、安心安全で、住みやすく、子どもの施策も充実していると思っている。今後、若い人をどのように取り込んで住みよいまちとするかを検討していてもらいたい。(4) ・川名にも外国人が増加しているが、文化の違い、生活の違いなどに理解を深める施策がほしい。犯罪の起こらない、自然が壊されることのない、安心してきれいなまちを企画してほしい。(5)	② ① 企画政策部	
47	村岡	・若い人が多い地域であっても元気な高齢者が増えてくる。自動車免許の返納も進み、高齢者が出かけるにも移動がしにくい、自転車も危ないとなると、引きこもる可能性が高くなるので、地域循環できるコミュニティバスなどを検討してほしい。(7)	②	
48	村岡	・ここで育った人が戻ってきたいと思うことがすごく大事だと思っている。自分たちの子どもが帰ってくるようなまちづくりをすることをテーマとして、そういう施策をしてほしい。(9)	②	
49	村岡	・市民の安全、安心を維持向上させるための交通、特に道路、治水など自然災害に対する強度を上げることを希望する。過去の開発により災害危険度が危惧される崖、丘陵の強化などが挙げられる。(7) ・自然（海と丘陵（陸地））との調和をとるため、自然の保全維持を図るための生態系（生き物）の実態調査や保護をして、未来ある子どもたちへ継承すべき。そのために各地区での市民によ	② ③	

		る生き物（鳥、魚、虫、樹木、野草など）調査、保全活動の組織化を推進すべき。（３）		
50	村岡	・住民が気軽に挨拶しあえて、お祭りや町内会などで繋がり、笑顔があふれるまちになってほしい。（８） ・現在は町内会・自治会への加入が減少しているが、地域は行政のみならず多くの人（ボランティア）や団体（町内会など）により維持されていることを周知・理解され、多くの人により良いまちづくりが行える状態を望む。（８） ・また皆が自分らしく生活できることを望む。お祭りのお囃子や風鈴、犬がうるさい（吠えてもいないのに存在が嫌なのか）と、１人の主張が支持され、伝統が途絶え、自分らしい生活に制限を強いられている例が多々ある。本当に「自分らしく暮らせるまち」とは何なのか。（２） ・その他、現状では文化（芸術・音楽）面は不足感があり、藤沢市民病院のピアノも再開されない。美術・音楽大学や専門学校、ライブハウスや練習スタジオ、楽器店が充実した文化的なまちを望む。（２）	*	③ ② ③ ③
51	藤沢	・高齢化が顕著に表れると思うので、横のつながりに加えて、縦のつながりを強くすることで、あらゆる年齢層の見守りの場となり、交流の幅が広がることを期待したい。（５）	*	②
52	無記入	・高齢者、子ども、乳幼児を抱えた家族、通常学級に通えない児童生徒とその保護者、リモートワーク中に少し息抜きしたい会社員など、誰でも集える居場所が必要。（８）	*	②
53	無記入	・藤沢駅周辺の交通及び商店街の活性化。（７）	*	②

イ アンケート「直近４年間に最も重点的に取り組むべきこと」への意見

No.	地 区	直近４年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)		市の考え方
-----	-----	--------------------------------	--	-------

1	六会	・高齢者と若い人たちが助け合う共助のまちづくり。(5) ・子育ても大切だが、子どもを生みやすいまちづくりも大切。(4)		② ②
2	六会	・藤沢型地域包括ケアは当初はいいシステムだと思っていたが、高齢者がどんどん増え、ケアマネは高齢化でどんどんやめている。もっと、具体的な対策を取る必要があるのではないか。ケアマネの課題や、高度障がいのある方が受け入れられる施設がほしいと昨年意見を述べたが、まったく進んでいない。スピードアップしないと、高齢化、子どもの笑顔あふれるまちづくりにはつながらないのではないか。(5)	*	① 福祉部
3	六会	・高齢化に伴い、高齢者が免許返納する等で交通不便となってしまうような地域があり、今困っている人に手を差し伸べられる施策を進めてほしい。高齢者への対応を早急にしてほしい。(5)	*	②
4	六会	・若い時にいろんな経験をした人がリタイアして高齢になり、そのようにストックされたものを地域の中に生かせるようなシステムを考えていただきたい。それから、地域によって特色があるということで、地域間の交流をつくってもらえるような仕組みも考えていただきたい。(8)	*	③
5	六会	・小田急線の踏切について、六会日大前一号踏切の混雑は甚だしく、いつ重大な事故が起こってもおかしくない状況にある。早急な改善をお願いしたい。(7)	*	③
6	片瀬	・防犯・防災（津波）。(1)		②
7	片瀬	・避難場所が定められているが、必ずしも万人が避難しやすい場所でない。高齢者は、行かれないと避難をあきらめてしまう方もいる。「とり	*	③

		だと思われる。(2)		
12	御所見	・用田バイパスの防犯灯の設置が少ない。(1) ・用田に防災避難所を兼ねた高齢者と子どもが集える公園を作る。(7)		③ ③
13	御所見	・通学路の安全性確保。(7) ・市街化区域の拡大。(7) ・防災対策(小中学校の体育館の建て替え)。(1)		③ ③ ③
14	御所見	・住みやすい地区を増やすために、企業誘致は慎重に調査してから許可をすること。(6)		③
15	御所見	・デジタルサービスについて、使う側へのサポートをきちんと検討すること。(8)		②
16	遠藤	・中小企業に補助金を出してほしい。物価上昇の為倒産する会社が増えているし、世間では賃金増やしてとは言いが、上げられないのが現状。それでは藤沢市は良くならない。(6)		③
17	遠藤	・高齢者対策。(5) ・自然災害に対する具体策。(1) ・財務施策の具体策。(9)	*	② ③ ③
18	長後	・道路整備について、北部の道路改修の要望を出しているのに一向に進まない。高齢化もあり、北部をもう少しみていただきたい。何もできないうちに問題が増えている。昔の課題もひとつひとつクリアしてほしい。(7)	*	③
19	辻堂	・都市拠点ネットワークについて、具体的な実現性を確認したい。(7) ・インバウンドにより江の島に多く観光客がきているが、北部地区のインバウンドはどうか。将来の収入源としてはどうか。(6)	*	③ ②
20	辻堂	・デジタル重点地区との話を聞いたが、ロボットなのかデジタルなのか、ロボットを作るといったアドバルーン的なものを打ち出すなどが必要である。藤沢市はイメージ作戦が下手な印象があり、夢のあるものを打ち出してほしい。(8)	*	③

21	辻堂	・辻堂地区は子どもが増えて、子育て世代がたくさん来ている。待機児童まではいかずとも、両親ともに働くという状況が多くなっているが、保育士さんたちが足りないという状況もあるので、保育園や幼稚園を充実させるなど、子育てに対する予算も増やしてほしい。(4) ・対して、高齢者も増えているわけだから高齢者の居場所も考えてほしい。福祉に対しての対策も考えてほしい。(5)	*	②
22	辻堂	・地震対策だけでなく、防災全般に強いまちづくり。(1) ・子育て、教育に関してハード、ソフト両面の安定的整備。(4) ・鉄道、道路、交通ネットワークの整備。(7)	*	②
23	善行	・むしろ市長に聞きたい。(9)		③
24	善行	・農業～温暖化で食について不安にならないように。(6)		③
25	善行	・細かく避難計画を知ってもらう訓練や周知方法を検討してもらいたい。避難を呼びかける放送では、具体的に善行地区のどこなどと言ってほしい。情報周知と詳細を知らせるようにしてほしい。(1) ・文化、スポーツでは、図書館が重要だと思っている。大きい図書館が遠い。本を読めるスペースがもっとほしい。(2)		③
26	善行	・今後、高齢化率が上がるとあるが、善行は坂が多く、この地区を試験的な場として、年齢を重ねても出られるような事業を実施してもらいたい。(7)		③
27	善行	・財政が厳しいと聞く。ふるさと納税が始まったときに市民税が激減したと聞いている。歳入確保策を考えるべき。(9)		②
28	善行	・【社会保障】特に、高齢者の生きがいづくりのサポート。(5)		①
				福祉部、生涯学習部

		・【教育、文化】特に、学校における「学びの改革」支援、市内大学との連携。(4) ・【自然環境】特に、谷戸公園、海岸公園、二河川の親水公園など顕著な公園の有効活用。(3)などに期待する。		②	
29	善行	・個人宅の植木がはみ出して道路を狭くしている。道路脇の雑草が伸びて歩行者の通路を狭めていて自動車あるいは自転車と譲り合いをしながら歩行している。他の地域から個人宅を訪問される人に家の場所を聞かれて自治会案内図を見ても5、6年前の状況が掲載されているので家の場所はわからない。同時に地域の安全に対する意識の低いことが想像されてしまう。このように、以前は自治会が主体で対応していたと思われることが出来なくなっているように思う。自治会の有り方を見直すか、どの様に対処をするかを判るようにしていただきたい。(8)	*	③	
30	善行	・小・中学校の不登校生徒への支援。(4)	*	①	教育部
31	湘南大庭	・ライフタウンを中心とするコミュニティバスの導入により、コンパクトな循環手段の実現。(7)		③	
32	湘南大庭	・昨今の各種犯罪の多発、大きな震災などへの備えも含め、住民が安心して住み続けたいまち。(1) ・スマート化、デジタル化の促進は必要だと思うが、ついていけない方々も多くいる事実を捉え、デジタルデバイド対応などを更に強化していけるまち。(8) ・車の免許返納など、生活のための動線を確保できにくい実態があり、バス運営の改善、乗り合い交通手段の充実など、高齢者や体の不自由な方への支援機能の充実。(7)		② ② ②	

33	湘南大庭	・大庭城址に関する事業について、要望書を出す予定であり、検討を進めてもらいたい。(2)		③	
34	湘南大庭	・転入者増によらない少子化対策。(4) ・外国籍住民とともにつくる地域社会。(8) ・不登校対策。(子どもの居場所づくり)(4)	*	③ ① ①	企画政策部、 市民自治部 教育部
35	湘南大庭	・高齢者に対する健康増進対策により「寝たきり」を減らす。(5) ・子育て支援の充実。(4) ・藤沢市民会館及その周辺の整備事業。(建て替え計画の推進)(2)	*	② ② ②	
36	湘南台	・最近、湘南台に病院など医療関係の施設が増えている。これらがバラバラに存在するのではなく、連携させて各病院に医療設備を重複しないように公開して各病院が利用できるようにすることで、1つ1つの病院は小さいけれどもまちとしてみると大病院のような設備を持っているメディカルタウン湘南台を実現したい。(5)		③	
37	湘南台	・市内公園の子ども用遊具(すべり台、鉄棒等)の整備。(7)		③	
38	湘南台	・DX化にはいいところもあるところもあるので、すべてデジタル化するのではなく、人手を介することは忘れてほしくない。(8)		③	
39	湘南台	・湘南台の魅力として利便性、生活面での安心感を高め、子どもたちの成長の手助けや身近な交流から、人間性の勉強に役立たせる。(4)	*	③	
40	鵠沼	・防犯灯をLEDにしてからまちが暗くなったので、散光形にしてほしい。(1) ・長年放置されている空き家や、木がうっそうとして物騒な土地をきれいにしてほしい。(5)		③ ③	
41	鵠沼	・AIが様々なカタチで自動的に情報提供する社会になる一方で、自分の頭で考えなくても答えが出せる時代となっている。人間らしさとなる、心のしなやかさ、コミュニケーションスキ		③	

		ル、道徳感、他者を思いやる心などの教育を、義務教育でもっと重視して頂きたい。勉強ができる子に育てるのではなく、人として立派な生き方ができるように育てる教育をお願いしたい。また、教員も社会経験が乏しい大卒の方だけでなく、努力し続け成功された方、スポーツ選手、地域を代表する方などを、補助講師として担える人材育成と活用をお願いしたい。学校が本当の意味で開かれ、未来ある子どもたちのための教育を検討してほしい。(4)		
42	鵠沼	・地区の格差について、鵠沼地区は子どもの人数が多く、学校の教室が足りない状態。教育の格差をなるべく早く解消してほしい。(4)		① 教育部
43	鵠沼	・現在、鵠沼南地区は子どもの増加が著しい。ここ数年で減少に転ずるとの理由から施設の新設がないままだと、保育園から中学校まで10年以上続くことが予想される。今でも驚異的に「孤独、孤立化」が進み、不登校などの問題がさらに(鵠沼南は現在市内平均の2倍)深刻になる。教員のシフト、校庭の確保、が急務と考える。(4)	*	① 教育部
44	鵠沼	・子どもたちの笑顔があふれるまちというが、子どもたちの学びの場所(学校)が定員いっぱいの状態であり、校舎も古く、災害時に不安が大きい。ため、早急に対応すべき。(4)	*	③
45	藤沢	・生産年齢人口は64歳までであるが、70歳は働ける年代である。生産年齢人口にその世代も入れたらいいのではないか。見直したうえでの施策を行えば、世の中がガラッと変わると考える。(5)	*	③
46	藤沢	・交通渋滞は一向によくならない。この4年間で市として思い切った政策をしてほしい。それには市民との対話を続けながら、行ってほしい。人口が減って交通量も減少している可能性も	*	③

		あるため、長期の計画を行い、20年後に変わることを、今、少しでも行ってほしい。(7)		
47	藤沢	・東京直下型地震や相模灘を震源とした第二次関東大震災さらには東南海地震、その上富士山の噴火も考えられることから、境川に架かっている橋の強化、新耐震に該当しないビル、住宅への耐震援助策の実施。一時避難所となっている多くの公園に災害時の対応設備の設置、災害情報の利用促進と広報・教育の充実などである。 (1) ・生産年齢人口の減少を止めるべく子育て支援の充実と、教育環境の維持向上。(4) ・藤沢駅周辺の交通ネットワークの改善とバリアフリー化への将来像の提示とその為の対策への市民の理解度を上げる活動。(7)	*	③
48	藤沢	・藤沢駅南口周辺ビルの再開発について、駅近郊でのイベント会場となるスペースがある建物の完成を願う。また、以前あったグランドホテル跡地(現駐車場)の再開発を願う。(7)	*	③
49	藤沢	・少子高齢化に伴い、子どもへの手厚い支援、引きこもり対策に力を入れるべき。将来の担い手が勤労できず生活保護に頼る世の中になってほしくない。(4) ・生活保護世帯の自力率、勤労率を上げるための取組などをおこなってほしい。(5)	*	①
50	村岡	・交通渋滞を緩和するためにミニバスの循環を考えてほしい。(7) ・災害対策に重点的に取り組んでほしい。(住宅開発は盛んに行われているが、土砂災害等は大丈夫なのか心配。)(1)		③
51	村岡	・自治会について、高齢者の方が、活動が難しいといってやめられることを最近感じている。きちんと活動してきた方こそその傾向が強い。自治会に入ることに責任感を感じない、負荷もな		②

福祉部
子ども青少年部

		くできるようにしてほしい。楽にできるようなサポートが必要。(8)		
52	村岡	・交通、特に道路、治水など自然災害に対する保全や高強度化に取り組んでほしい。(7) ・危険災害度リスクの高い地域の再見直しと改善強化、保全を図ってほしい。(1)		② ③
53	村岡	・乱立する住宅の建設を抑制する施策。土地があれば売れるので、法規遵守していれば、利便性や安全性、将来性はお構いなしですぐ家が建つ。一軒か二軒分くらいの土地に、四軒建ったこともある。狭小住宅は住民トラブルにも発展しかねないし、将来の空家問題にも関係すると考える。(5)	*	③
54	無記入	・子育て支援。共働き世帯を応援するためにも、保育園や子どもを預けられる施設を充実させる。そのためには、保育士の待遇改善、増員に取り組んでいただきたい。(4)	*	②
55	無記入	・これからは高齢化が進み、人口も将来は減少していくなかで、交通や医療に対する取組をしてほしい。(5)(7)	*	②

ウ アンケート「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028」への意見

No.	地 区	(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028への意見 (一部要約)		市の考え方
1	六会	・ボランティアポイント制に関して、提言がなされているとのことである。市民の多様なボランティア活動を強く後押しする制度と考えられ、他の地域でも取り入れられていることから、早急に実施に向けて行動していただきたい。(8)	*	③
2	片瀬	・ 8つの基本目標の詳しい内容の2020年から2024年の伸び方などを示す。(9)		③
3	片瀬	・ 20年前、4年前の計画についての点検をしてもらいたい。(9)		③
4	片瀬	・ 8つの目標について、具体的な数値目標を出し		③

		た方がよい。例えば防犯カメラを何か所つける、実績として何か所ついた、など。(9)		
5	片瀬	・観光地である片瀬地区は、観光客が来てくれることはありがたいことだが、そこに住む地域住民が観光により我慢を強いられるのは違うと思う。観光を盛り上げるのも、地域住民の理解と協力を得ながら進めるべき。(6)	*	① 経済部
6	明治	・公共空間の利用で、多様な市民が「出会う」「つながる」場の創出とは、具体的にどのようなことか。(8)		③
7	明治	・実現できるように努力してほしい。(9)		③
8	明治	・総合指針を全ての人に読んでもらいたいなら、理解を深めるため、英語、カタカナ英語、アクロニムの使用は極力やめるべき。特に、3つのまちづくりコンセプトには嫌悪感がある。(9) ・素案は、「求められています」「重要です」「必要があります」「大切です」など理念や希望ばかりで実現のための具体案がほとんどないが大丈夫か。(9) ・藤沢バイパスが国道1号線となったため、旧国道1号線が県道44号線となり、「旧東海道」の表示も少なくなった。藤沢を宿場町だったと本気でアピールする必要があるのか。東海道を出来て400年以上、将来記念行事などをするときこのような保存状態でいいのか。(2) ・自治会、町内会をはじめとする様々な地域活動については長期的には衰退していくのではないかと。デジタル化の普及により、むこう三軒両隣の文化も消滅し、SNSの文化となっている。高齢者は回覧板を持っていくのが困難と町内会を脱退する。(8) ・人々の接触の機会が減少し、助け合いやコミュニティの構築は絵空事になりつつある。避難行動要支援者に対する支援などはどうしたらいい	*	③ ③ ③ ② ②

		いのか。(1)		
9	御所見	・やれる事を確実に1つ進める。(9) ・旧御所見市民センターの有効活用。藤沢の遺跡館を作る。ウォーキング時の見学コースにもする。早くやること。(2)		③ ③
10	御所見	・計画して実行できなかった点を継続課題として対応策を掲げて取り組んでいただきたい。(9)		③
11	御所見	・人口が減少する推計をしているのであれば、市としてそこにどのように対応したいのか、ビジョンを明確にしてもらいたい。(9)		③
12	御所見	・地域ごとの優先順位があると思うが、4年間の実績を出してほしい。(9)		③
13	遠藤	・企業ではリストラや倒産をしている。無駄に税金を使わないで、役に立つ税金の使い方をしてほしい。(9)		③
14	遠藤	・現在の指針の内容をどのくらい実現しているのか、検証して説明してほしい。(9) ・パブリックコメントは、高齢者には難しいのではないか。意見聴取の市の考え方を聞かせてほしい。(9)		③ ③
15	遠藤	・市民の意見や市長公約の具体的施策と反映。(9)	*	③
16	長後	・湘南大庭地区や善行地区の人口が少なくなっているが、それに対する施策や、市全体で人口を増やしていく施策が大事になる。(9)	*	③
17	長後	・市からのお知らせには、SNSだけではなく高齢化になればなるほど別の方法が必要ではないか。(8)	*	③
18	辻堂	・将来人口推計について、人口の増減の具体的な内容を資料に書いてほしい。(9)	*	③
19	辻堂	・時代の変化で変わっていくことは理解したが、財政面で厳しく、人も時間も十分でないなかで進めていくには、現状を広く市民に知ってもら	*	③

		い、行政と市民とがともに手を取り合って進めていかなくは実現しないを考える。(9)		
20	善行	・企画政策部と市民自治部は定期的に意見交換すること。(9)		③
21	善行	・市民自治について、ボランティア、NPOなど活動が盛んになっているが、委員会など人口減により一人がいくつも重ねて引き受けている状態にならないように改めて見直してもらいたい。(8)		③
22	善行	・「藤沢らしさ」はどういうところが藤沢らしさなのか、人によって変わらと思う。市としての藤沢らしさを教えてもらいたい。どこに自信をもって自慢できるのかが見えづらい。もっと前面にアピールできたらよい。(9)		③
23	善行	・人口減少や人口構造の変化や財政難が予想される中では、各分野へのハードソフト両面での適正配分の再構築が必要になるのではないか。基本方針はその優先順位の議論を整理するものでなくてはならない。都市像、コンセプト、基本目標の三段構造はわかり易いものになった。一方で、さらに言葉を明瞭にするには、「藤沢らしさ」などの耳障りは良くても意味するものが曖昧なものはできるだけ避けるのがよい。気になったところをあげるなら以下のとおり。郷土愛「あふれる」→「を大切にする」「を誇れる」 (本当は「郷土愛」を代えたいが、まだ対案がない) 「松風に人の和うるわし」→「豊かな自然、文化を大切にする」「誰もが安心して暮らせる」 「藤沢らしさ」→「藤沢の自然、文化」(9)		③
24	善行	・近隣の横浜市、茅ヶ崎市、平塚市などの市政運営と比べたときに、藤沢市として自慢出来るようなものになっているのが望ましい。(9)	*	③

25	善行	・「藤沢らしさ」をもっと強調し、内外ともに藤沢らしさをアピールしてほしい。(9)	*	③
26	湘南大庭	・基本目標4の子ども笑顔があふれるまちをつくるために、滝の沢地区花火や駒寄地区夏祭りなどのイベントで体験して非認知能力を高めることへの支援拡大が必要。他地区にも広めたい。(4) ・基本目標5の地域包括ケアシステムの見える化促進と充実が望まれる。(5)		③ ②
27	湘南大庭	・住民(市民)と近い、情報が浸透しているまちづくりが必須。指針の内容はよく出来ていると思うが、市民に浸透できていないので、広く情報共有が図られる方法を検討願いたい。(8)		③
28	湘南大庭	・基本方針については、網羅的な内容でよいと思う。(9)	*	③
29	湘南大庭	・湘南大庭地区の活性化指針と総合指針の整合性が合っているかどうかを議論しながら進めてほしい。(9)		③
30	湘南大庭	・めざす都市像にある「郷土愛あふれる藤沢」のタイトルに加えて「松風に人の和うるわし……」とあるが、松風に云々の表現が古臭く感じるし、後に続く「湘南の元気都市」とどう結びつくよくわからない。特になくてもよいのではないか。(9) ・「主体」という表現が多く出てくるが、役所言葉のように思えて違和感を感じる。他に今の時代にそぐう表現はないのか検討の余地があるように思う。(9) ・内容自体は、大変素晴らしいと思うものの、どこまで施策として具現できるかが重要であり、期待したい。(9)	*	③ ③ ③
31	湘南台	・湘南台のように約50年前は畑で、現在住んでいる人の9割は転入者のまちと、東海道に面した古くからあるまちに住んでいる人との郷土		③

		に対する考え方はまったく異なる。今回の基本方針は、古くからあるまちに住んでいる人が中心で、転入してきた者の考えとは異なる。(9)		
32	湘南台	・行動⇔方針改定⇔課題抽出⇔行動のサイクルを検証することと、現時点での課題に対する予想できる行動計画を示せるとよい。(9)		③
33	湘南台	・学校、会社、地域等の交流を増やし、危険と知識と人を思いやる心を育む社会になれば、人間としての尊厳のプラスになるのではないかな。(5)	*	③
34	鵠沼	・鵠沼は、昔からの邸宅がなくなり、分譲されて、景観がよい、海があるなどの理由で若い世帯が増えている。若い人はまちや行政には関心がありならしく、町内会役員が老人会のようになっている。民生委員もなり手がなくて高齢化している。若い人が興味を持ってくれるようなまちづくり、コミュニティづくりが必要。(8)		②
35	鵠沼	・インクルーシブの点で、2024年に認知症基本法が施行されているが、藤沢市のオレンジプランでは、現在、チームオレンジの位置づけすらあやふやである。「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」と言われないうに、当事者(本人)の声を施策や事業の中心に据えるような取組を期待する。「本人の声を聴く」というような文言を、是非入れてほしい。(5)	①	福祉部
36	鵠沼	・藤沢らしさを未来につなげるとあるが、藤沢らしさはみんな違うイメージを持つ。市としては藤沢らしさをどのように考えているか、明確になっているものがあれば示してほしい。(9)		②
37	藤沢	・めざす都市像はそろそろ変えた方がよい。(9)	*	③
38	藤沢	・現状と見通し、特性の認識については概ねズレはない。ただ、市民自治については、活動はされているが、その活動が市民全体の意識に連	*	③

		動しているかという点では、疑問が残る。一般市民意識と市民活動家の間の意識のズレを是正していくことが喫緊の課題だと思う。(8) ・基本方針の長期20年先を見据えての4年ごとの見直し改定は妥当だと思う。(9) ・めざす都市像の「郷土愛あふれる藤沢」は良いが「松風に人の和うるわし」は抽象的すぎる。「郷土愛あふれる」をより具体化した文言とすべき。(9) ・3つのまちづくりコンセプトは良いのではないかな。(9) ・8つの基本目標の各項目は良いが、優先順位を考慮し、1安全・安心・・・2都市基盤・・・3地域経済・・・4自然・・・5子ども・・・6誰もが自分・・・7文化・スポーツ・・・8多様な主体・・・とし、災害対策、都市基盤対策に資金を傾けないと理念だけで時を過ごしてしまうこととなる。(9)		③ ③ ③ ③
39	藤沢	・まちづくりコンセプト1の藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち(サステナブル藤沢)は、「地元で採れた新鮮な食べ物」にプラスし、「藤沢らしい名産品、お土産品のブランド化」の推進を提案する。全国区で、藤沢の名物!と思えるような全国区のブランド化を推進し、インフルエンサー連携、メディア露出、ふるさと納税活用、市主催のイベント等でコンテストの開催、ブランドコーディネーター、ブランドデザイナーとの提携予算を割くことで、効果的なマーケティングを実施できると考える。(6) ・まちづくりコンセプト2の共生社会の実現を目指す。誰1人取り残さないまち(インクルーシブ藤沢)は、子どもたちを含む多様な市民がまちづくりに関わることとして、小・中学校を	*	③ ③

		コアとしたコミュニティづくりに、PTAに代わる新しい軸「保護者ボランティア会」の推進を提案する。地域のお祭りや、シルバー産業企業とのコラボレーション、スポーツイベント、地引き綱、藤沢農業イベント、スマート防災イベント等に積極的に携わる「現役生徒の保護者ボランティア会」の活動参画を後押ししたい。PTAへの参画ポイントとの互換性の確保、市推奨ボランティア実績については、進学時の推薦項目への追加等をサポートする仕組みづくりを市として推進してほしい。政策が実現することで、小中学校の教職員の負荷軽減、共働きファミリー層の郷土愛、藤沢に対する教育機関の注目度が高まると考える。(4) ・まちづくりコンセプト3の最先端テクノロジーを活用した安心安全で暮らしやすいまち(スマート藤沢)は、AI(人工知能)の活用として、ロボタクシー実証実験特区を追加提案したい。市中心エリアや医療機関を結ぶルートに限定し、スマートに移動するための新たなMaas開発トライアルを関連企業と提携し、後期高齢者の安全な移動手段の確保、介護関係者への無料開放サポート、企業誘致を実現する。(6) ・より豊かな暮らし方、働き方として、海岸、大学エリアに「ふじコンバレー」特区を追加提案したい。快適で安全なオフィス空間を市が提供し、企業連携しながら、藤沢発の先端ベンチャー起業支援、藤沢産食材によるレストランの併設、ふじコンアプリの活用、市広報によるマーケティング支援など企業特典となるような優遇政策を織り混ぜ、すべての世代から魅力的なスマート藤沢を目指す。(6)		③
40	藤沢	・藤沢市の人口は、2035年にピークを迎えて	*	③

		その後は減少に転じる予想だが、若い世代が増加（流入）するための施策等、出産しやすい環境（市独自の給付金等の支給）により、人口減少をゆるやかにしてほしい。（４）		
41	藤沢	・教員の不足を充足化させ、一人でも多くの子どもに教育が行き渡るようにすべき。学校へ行かない選択肢は構わないが、同じ教育を提供するかは課題。（４）	*	③
42	藤沢	・とてもよくまとまっている。（９）	*	③
43	村岡	・郷土愛あふれる藤沢に期待する。（９）		③
44	村岡	・新しいテクノロジーを使って情報を早く受け取り、情報だけもらって自治会には入らないということがないような施策をしてほしい。（８）		③
45	村岡	・基本的な骨子については概ね賛成。開発優先ではなくまずは市民の安全、安心の維持向上と、自然（海と丘陵（陸地））との調和・親和性を高め、未来ある子どもたちへ継承すべき。（７） ・生き物（鳥、魚、虫、樹木、野草など）調査、保全活動の組織化を推進すべき。（３）		③ ③
46	村岡	・空家による犯罪を懸念している。取り壊しが困難なマンション等の建築抑制、居住エリアの集約（インフラ維持）も検討が必要。（５） ・開発行為による自然の減少。川名の計画道路延伸は南側で唯一の自然である谷戸の地下を通すにあたり、水脈への影響はないとされているが、リニアでの問題を例に専門家の見解もあてにならず。人口減少や人々の意識の変化（物質的な面から精神的な面へ）、将来の維持コストから必要性は再検討すべき。（７） ・市内で暮らし、学び、働けること。多くの大工場がマンションへ変わった。空家問題も考慮すると、いま増やすべきは住宅ではなく、働く場である。将来性のある企業への積極的な誘致を望む。（６）	*	③ ③ ②

		・ふるさと納税では２０億円規模で税収マイナスである。名産品の開拓、観光の魅力周知が必要。（６） ・村岡新駅について、今後の企業や居住者に期待するが、高齢化での必要性は疑問。まず高齢者の健康維持として従来常識（１日３食など）や医療への妄信・依存からの脱却が第一歩だと考える。（５）		③ ③
47	無記入	・基本目標１、２は必要。基本目標３は環境保全の維持、発展はよい。（９） ・基本目標８の自治会・町内会の地域活動団体の衰退及び役員の高齢化が問題。（８）	*	③ ②

以 上

関係団体・協議会等からの意見聴取の状況

新たな市政運営の総合指針の策定にあたり、関係団体などから幅広くご意見をいただくため、各部局と連携し、20年後の藤沢市の姿及び直近4年間に最も重点的に取り組むべきことについて意見交換・アンケート調査を行っています。

12月20日現在、○団体等を対象に依頼し、いただいているご意見は次のとおりです。

1 実施期間

2024（令和6年）10月7日（月）から2025年（令和7年）1月8日（水）までの予定

2 意見の状況（12月20日現在）

（1）「20年後の藤沢市の姿」に関する意見

団体数 ○件、無記名 ○件 意見者数 ○人 意見の数 ○件

（2）「直近4年間の重点取組」に関する意見

団体数 ○件、無記名 ○件 意見者数 ○人 意見の数 ○件

（3）「（仮称）藤沢市市政運営の総合指針2028」への意見

団体数 ○件、無記名 ○件 意見者数 ○人 意見の数 ○件

3 意見について（12月20日現在）

（1）意見の概要

※意見については、次の区分に分けて、集計予定です。

区分	基本目標
（1）	安全・安心なまちをつくる
（2）	文化・スポーツを盛んにする
（3）	自然を守り豊かな環境をつくる
（4）	子どもたちの笑顔があふれるまちをつくる
（5）	誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる
（6）	地域経済を循環させる
（7）	都市基盤を充実する
（8）	多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める
（9）	その他

※意見の概要には、アンケートのほか、意見交換当日にいただいたご意見も含まれます。

①（黄色）は、反映の有無を含めて、検討したほうがいいのではないかと考えた箇所。
水色は、事務局として対応した方がいいと考える箇所。

※市の考え方について、次のとおり整理しています。

①検討が必要で、反映の有無について考え方を明らかにしたい。

②すでに指針（素案）に内容に関する記述あり

③指針（素案）に記述はないが、市全体への意見として受け止めたい。（具体的な事業への記述のため、指針そのものへの反映は難しいと考えられる意見もここ）

④その他

※１２月４日の議員全員協議会資料以降の意見には＊をつけています。

ア アンケート「２０年後の藤沢市の姿」への意見

No.	団体名等	２０年後の藤沢市の姿（一部要約）		市の考え方
1	藤沢市生活環境連絡協議会	・高齢者の住みよいまち。（５） ・観光地として、落書き、ごみのないまち。（６）		② ③
2	藤沢市生活環境連絡協議会	・すべてのごみが個別回収となり、不法投棄等がなくなり、地域の方の環境美意識が高まり、雑草やばい捨てのないクリーンなまちとなつてほしい。（３）	＊	②
3	チーム F U J I S A W A 2 0 2 0	・将来の人口推計から高齢女性が多くなる。高齢社会を見据えて就労支援なども充実している社会、学び直しへの支援、社会的弱者が孤立しない社会を望む。（６）		②
4	チーム F U J I S A W A 2 0 2 0	・歩道や自転車道が整備され、すべての人に優しい環境になること。（７）		②
5	チーム F U J I S A W A 2 0 2 0	・日本の人口の３分の１以上が高齢者になっていると思うが、藤沢市はそうならず、子どもや若者、働き世代の割合が多い状態であつてほしい。高齢者よりも、子どもたちや子育て世代、働き世代が住みやすいまちづくりをしていただきたい。高齢者対策は二の次でよいと思う。（９）		③

6	チーム F U J I S A W A 2 0 2 0	・居心地のよいまち、元気なまち。(9)	*	②
7	藤沢市幼児教育協議会	・長年幼児教育の役割の一部を担ってきたが、今後、少子化が進むなかで、藤沢市の幼児教育をどう描いていいのかが難しい。子ども一人一人が表現しやすいような教育を目指して、その一端を担っていきたい。(4)		②
8	藤沢市幼児教育協議会	・子育てを家庭のみに負わせるのではなく、親も子も地域の様々な人たちとつながりながら、健やかに子どもたちが育っていく地域であってほしい。(4)	*	③
9	藤沢市幼児教育協議会	・子どもにも高齢者にも優しい今のままの自然豊かなまちであってほしい。(3)	*	②
10	(公財) 湘南 産業振興財団	・都市間競争において優位に立つことにより、市が豊かで活気にあふれ、子どもたちがのびのびと成長でき、現役世代にとって子育てがしやすく、高齢者も将来に対し安心して生き生きと暮らせる、市民が藤沢市を誇りにもてる市になってほしい。(9)	*	③
11	藤沢市緑化事業協同組合	・緑や木々が多く、市民が自分の地域や藤沢市を誇りに思えるようになってほしい。(3) ・台風や水害を避けることは難しいので、有事にも安心していられるような対応を行政に行ってほしい。(1) ・観光業も大切だがオーバーツーリズムにより地域住民の利便性が損なわれることがなく、住民優先の施策を行ってほしい。(6)	*	② ② ③
12	藤沢市小規模保育事業所園	・保育園に携わるものとしては、沢山の子どもたちが生活する場であって欲しい。少子化対	*	②

[illegible]

		に多くの方が、大都市での生活や、タワーマンションに住むことに憧れたりしない。それよりも、生まれたまちで働き、生活し、家庭を築くことの方が遥かに「贅沢」な時代が既に到来していると強く感じる。「仕事がないから都心で暮らす」「生活に必要なインフラがないから地元を離れる」といった、悲しい選択を少しでも減らす様に市政には頑張ってもらいたい。（９）		
16	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	・遠藤地区に相鉄線開通。（７）	*	③
17	藤沢市民間保育園園長会	・新駅ができることで、経済の発展・商業施設を充実させる。また、若い世代を増加させ、より住みやすい地区になってほしい。（６）	*	③
18	しんめいはじめ保育園	・人口の増減が地域ではっきりし、減の地域の高齢化が進む。その中でも地域力を高め、どの地域も活気あるまちづくりが進んでほしい。子育てにやさしいまちと合わせて、高齢者に優しいまち、ずっと住み続けたいまちになってほしい。（９）	*	②
19	湘南ひばり保育園	・誰もがお互いを思いやって暮らしていけるまちになってほしい。（９）	*	②
20	湘南大庭の未来を考える会議	・湘南ライフタウン活性化指針（資料編）に具体的な意見が記載されている。コミュニティ、豊富な人材から防災までの地域資源と課題、さらにはこれらを実現するための取組み方針「共生」「生彩」「発信」などを活かしてほしい。（９）	*	③

21	湘南大庭の未来を考える会議	・現在、ライフタウンの地域再生構想が始まっているが、造成住宅地であるライフタウンの自然環境と生活環境を保全維持しながら、現有のインフラ(ハード)を更新活用し、先端技術(ソフト)を用いた快適でストレスのない暮らしができる生活空間の構築を期待する。現存する農地(緑地)を減ずることなく、地域再生を実践することを願う。政策の基本目標は、明解であることが第一条件だが、具体性のある実現可能な実践策であることが求められる。政策が施行されることによる成果が、市民が味わうことのできる果実になることを期待している。(9)	*	③
22	藤沢市管工事業協同組合	・隣近所ともコミュニケーションが取れるような環境になっていてほしい。(8)	*	②
23	藤沢市管工事業協同組合	・どの世代も安心安全に幸せを感じられる市。工業商業農業観光バランスがいい市。(9)	*	②
24	藤沢市測量業協会	・一番は治安。最近の無差別の強盗傷害事件が起きないまちづくり。また、防犯上、街灯や防犯カメラの設置の充実。(1) ・個人情報も大事だが、近所付き合いの大切さも認識した方がよい。(8) ・子ども達の教育、きちんと生活出来るまでの支援。(金銭面も必要だが、精神面が重要)自立を促す取り組み。(4) ・測量業としては、交通事故を減らすための、道路整備は欠かせない。(7)	*	② ② ② ②
25	藤沢市測量業協会	・子どもや高齢者など社会的弱者がより生活しやすい地区になっていてほしい。(5)	*	②

26	藤沢市測量業協会	・空家や荒地が減って、野菜、果物の畑が増えてほしい。(7)	*	③	
27	藤沢市測量業協会	・東海道線の上に道路を作ってほしい。明治地区の渋滞が解決されない。(7)	*	③	
28	藤沢市測量業協会	・宅地開発した地域の子どもたちが一気に出て行ってしまう。出て行って戻ってこない。都市計画できれいにした方が若い人は住むかもしれない。(7) ・事業継承も考えるのが大変。(6) ・思い切って藤沢はロボットのまちにすればよい。(6)	*	③ ①	経済部
29	藤沢市測量業協会	・子どもからお年寄りまで「笑い声があふれるまちに」なっていてほしい。(5)	*	③	
30	藤沢市民生委員児童委員協議会	・安全・安心なまちを創造するには、今後予想される高齢化人口増に対応する取組が必要。災害面からも、だれ一人取り残さないためにも、新居住者と地域とのつながりが重要。向こう三軒両隣意識の浸透。(5)	*	③	
31	藤沢市民生委員児童委員協議会	・湘南の魅力ある景観を維持し、観光客が多数訪れる都市となっているとともに市内に住んでいる一人ひとりが生きがいを持って未来に向かって活動する地域となっている。(6) ・また、近隣の都市と共栄共存の関係を築き人々の交流が活発に行われている。各地域が同一のものではなく、個々に独創的な考えのもと、それぞれのビジョンを持って地域が生き生きとしている。(8)	*	② ③	
32	藤沢市民生委員児童委員協議会	・高齢者がさらに暮らしやすい藤沢市、地区になっていてほしい。(5)	*	②	

33	藤沢市民生委員児童委員協議会 (辻堂東)	・地域によるが、児童が非常に多い地域としては、20年後は子どもたちが成人となり社会を担うことになり、今以上にデジタル化が進み、AIの時代になる。将来の時代、平和で平素、藤沢の自然がいつまでも保たれることを望む。(9)	*	②	
34	藤沢市民生委員児童委員協議会	・安全・安心なまちづくり。(1) ・新しいモビリティや交通環境。買い物難民にならないように、ミニバス等の巡回を希望する。(7)	*	② ②	
35	藤沢市民生委員児童委員協議会	・坂の多いまちで、20年後の人口は減少が多く、高齢化率も高い地区である。団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となる2040年は高齢者人口が最大となると予想されているが、買い物難民や医療、福祉など交通に関するテクノロジーの活用など利便性の整備が必要。(7)	*	②	
36	藤沢市民生委員児童委員協議会	・子どもから高齢者まで住みやすいまちになってほしい。(9) ・住んでいる地区は商業地区にはなってほしくない。住宅区域でありながら最低限の生活必需品が揃うまち。(6) ・交通不便地区のないまち。(7)	*	② ③ ③	
37	藤沢市老人クラブ連合会	・老人クラブでの活動は、高齢化社会のなか、後継者が見つからず組織が数年後には消滅の危機状態にある。後継者が育つための環境なり手段をつくってほしい。(5)	*	①	福祉部
38	藤沢市老人クラブ連合会	・総合指針に具体的に記載をしたうえで、長後駅周辺の交通対策、渋滞の緩和の要望を実現し、長後商店街の活気が戻ってほしい。また、引地川西側の区画整理事業も50年前の計画に基づき実施されていると思われる。これ	*	③	

		らを、樹木の伐採、歴史ある風景、騒音、住宅地に進入する車の多さなどを考慮しながら緑、歴史を保全し、安全、安心に暮らせるように実施してほしい。(7) ・田んぼがなくなり、鳥のさえずり、かえるの鳴き声がなくなってしまったので、緑豊かな環境になることを望む。(3) ・また、水害被害に対する対策は必要である。(1) ・年金生活、生活困窮者、生活保護等の対象者が安心して人生の終わりにつける設備、医療にかかれる対策を切に望む。(5)		③ ② ③
39	地区社体協連 合会	・高齢者がこの先ますます増える時代を迎えれば、更なる医療費や福祉に係る財源が必要となり市の財政逼迫は免れない。高齢者のみならず、市民が健康づくりに興じる事が出来る公的な施設等の拡充が望ましい。市民の健康志向をもっと推進出来るように、それこそが健康寿命日本一を目指す当市のあるべき姿ではと思う。少し足を伸ばせば安く、安心、安全な公的運動施設などがある藤沢市であってほしい。(2)(5)	*	③
40	社会福祉法人 二葉福祉会	・この20年、藤沢市のまちの景観は大きく変化しているのは、その時々による良きまちづくりに取り組んできたからに他ならない。現在も大きな事業が進行中。 1 藤沢本町駅周辺整備 2 藤沢駅周辺地区整備及び再開発 3 村岡新駅周辺地区整備 4 横浜、藤沢線全線開通工事等 交通渋滞の解消を希望する。(7)	*	②
41	藤沢市電設協	・災害時に関係団体が独自に動けるようにす	*	③

	会	る。(1)			
42	藤沢商工会議所	・市長公約の反映について、20年後の話はいずれみ野線の延伸しかない。公共施設再整備が集中しているので財政が厳しいのはわかるが、ここから20～50年のためのまちづくりなら、借金してでもやったほうがいいのか、というのが経済界の言い分である。新産業の森のような投資をしないと市外に出て行ってしまう。商業も停滞している。(7)	*	②	
43	藤沢商工会議所	・人口減少を止めるのに、子どもが生まれてからの施策では減少傾向は変えられないと考える。2035年を境に下がりますということだけしか書いていないが、市も県も出生率や出生数を増やす施策はないのか。生まれてからの制度だけでは国は亡びる。(4)	*	②	
44	藤沢市社会福祉協議会	・基本目標5について、高齢化の記述が多い感じがした。高齢者だけでなく、障がい、など多様な状況も入れていいのではないかと。誰もが自分らしく暮らせるまちに幅広い対象者像を載せてほしい。(5)	*	①	福祉部
45	藤沢市社会福祉協議会	・基本目標1について、犯罪については少ししか記述がないが、高齢者、単身世帯の増加に合わせた書きぶりは必要ないか。(1)	*	①	防災安全部
46	藤沢市社会福祉協議会	・一人ひとりから来る困りごと、相談が増えてきているが、困っている人が取り残されないテクノロジーも出てくるはず。24時間チャット相談のほうが相談が来ている部分もあつたりと、最新テクノロジーも取り入れて、実施出来たらよい。(5)	*	③	
47	藤沢市スポーツ連盟	・文化・スポーツを盛んにする点について、中学の部活の在り方について記載がない。サッカー、駅伝など中学校でスポーツが盛んであ	*	①	生涯学習部

		り、次の世代の場がどうなるのか、それが記載されていないのではないかと。若い世代がスポーツを続けていけることを書いてもらいたい。(2)		
48	藤沢市スポーツ連盟	・スポーツする場所が足りない。高齢者スポーツに関しても、日曜日の学校のグラウンドぐらいしかない。公民館によっては体育施設がない、身近な施設でスポーツできる場所を増やしてほしい。健康寿命を延ばすと言っている割には場が足りない。学校の開放だけでは追いつかない。下土棚遊水地、今田遊水地の利用もあるのではないかと。また、県で所有しているスポーツ施設を市民が使いやすくすることや、閉鎖中のスポーツ施設の再開発を見越した取組をしてほしい。(2)	*	③
49	藤沢市スポーツ連盟	・障がい者スポーツに関する記述が何もないので入れてほしい。共生社会の状況を創ることを載せてもらいたい。(2)	*	① 生涯学習部
50	藤沢市スポーツ連盟	・長期、短期の目標の何か1つでも結果が確認できるようにしてほしい。スポーツ施設設置等に関する計画について、実現が延びるのはしょうがないが、項目としてあげておいてほしい。4年間で見直しだとまた同じことになる。まったく記述がないと、追跡すらできない。指針に記載をすることで、やるという意思表示をしてほしい。(2) ・スポーツの種目が増えていて、それぞれの種目が使える施設が必要。(2) ・また、海を生かしたスポーツを考えると、マリンスポーツの出来る環境の維持を県とともに考えて広く全体にとらえ、具体的な記述をしてほしい。(2)(3)	*	③ ③ ③

51	湘南地域連合	・住環境と交通施策はセットだと思っている。M a a Sを記述しているが、行政が地域と連携して成功している事例が結構ある。公共交通の充実にはいろいろな方法がある。年齢層が高くなる中で、高齢者が元気になる施策が大事。(7)	*	②
52	湘南地域連合	・交通環境の向上、働きやすい環境にするには、駅前に荷捌き所を設置するなど、トラックの駐禁対策も念頭において開発をしてほしい。川崎の駅前でも荷捌き所を作ってもらっている。運輸業界もかなりの人手不足であるが、暮らしてよかった、働けて良かったという環境を作っていくために頑張っている。(7)	*	③
53	湘南地域連合	・村岡地区周辺について、人が増えて活性化したときの渋滞や騒音対策を考えてもらいたい。村岡にすでに住んでいる人からの意見を聞きながら進めてもらいたい。(7)	*	③
54	湘南地域連合	・バスの減便など、担い手不足について、公共交通への対応を考える必要がある。また、事業者からも夏場の南側の混雑や、藤沢駅周辺、辻堂駅の渋滞が課題と言われており、対応が必要なのではないか。(7)	*	②
55	湘南地域連合	・江の島について、夏以外の魅力発信が必要。季節ごとの顔がほしい。(6) ・また、国道も含めた道路整備も大事。移動支援についてはライドシェアを入れるのではなく、公共交通支援でお願いしたい。(7)	*	② ③
56	藤沢市設計監理協会	・交通のモビリティは変化が速いと思っている。交通問題を解決していくとき、自動運転、空飛ぶくるまなど、都市のインターフェイス、道路と建築のインターフェイスはS o c	*	③

		i e t y 5. 0 など I O T に注目したい。M a a S、ラストワンマイルなどのワードは入っているが、新しい技術について率先して入っていない印象。高齢者が出かけやすく、交通事業者が便をどれだけ走らせられるかなどに取り組まないといけなと考える。 (7)		
57	藤沢市設計監理協会	・まちづくりを今後行うにあたって、企業が設計、工事していくことになるが、藤沢にある企業を優先的に設計、工事に携わることが出来るような、地元企業が参加出来るような形にしてもらいたい。建物の長期修繕計画を考えると、長期化、複雑化している。70年間の計画を立てる難しさや、省エネや環境への配慮も上乗せされて複雑化していく。また、既存の建物は20～40年たつと、様々な補修をすでに行っているが、その可視化の必要がある。何かの際にどうなっているのかわからない、とならないような情報の蓄積や、人材についても、知識、履歴の有効活用など公共建築物のノウハウの構築が必要ではないか。契約、図面のPDFなどのデジタル化を行い、検索できるだけでも違うので、保管のルールづくりが大事。使い手と設計とのコミュニケーションをもっととれると、建物をもっとうまく使い、省エネなども出来ていくのではないかと。(7)	*	③
58	藤沢市行財政改革協議会(大学)	・もっと子どもたちに地域のことを知ってもらう機会を増やしていくことが大切。それが郷土愛を醸成することにつながり、将来の地域の担い手育成にもつながっていくと考える。市内大学とのさまざまな連携強化も多様な	*	②

		分野で効果が期待できるのではないか。(4)		
59	湘南白百合学園幼稚園	・新しく清潔感のある地域になってほしい。若い子育て世代が喜んで選ぶ地域を目指してほしい。片瀬海岸地区を、観光客ばかりを対象にせず、住民にとっても住みやすい地区になるように願う。(9)	*	③
60	無記名	・地域の高齢者が暮らしやすいまち。(5) ・コミュニティバスの充実を図り、病院の通院や買い物などを高齢者自身でできるようにしてほしい。(7) ・認知症になっても自宅で暮らせるよう、サポート体制の充実を図ってほしい。(5)		② ② ②
61	無記名	・高齢者が増える中で、支える担い手不足が非常に心配。(5) ・地域で高齢者や認知症の方を支えられる地区、さらに寿命が延びても元気に住み慣れたところで暮らせるまちになってほしい。(5)	*	② ②
62	無記名	・藤沢市民が受け身ではなく、「自分の地区は自分たちで何とかしていくんだ」というくらいの気持ちを持つ地区になってほしい。(8)	*	③
63	無記名	・自分の意志で、生き方・職業・教育・医療を選択できる、それらの資源を備えた自由都市。(9)	*	②
64	無記名	・藤沢駅北口付近の交通渋滞。(道路の狭さ)(7)	*	②
65	無記名	・子どもにとって暮らしやすい地域になってほしい。(4)	*	②
66	無記名	・地震対策。(1) ・交通体系の見直し。(住宅街への大型車進入の禁止)(7)	*	② ③

イ アンケート「直近４年間に最も重点的に取り組むべきこと」への意見

No.	団体名等	直近４年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)		市の考 え方
1	藤沢市生活 環境連絡協 議会	・高齢者が安全に住めるような道路の整備。(日常生活においても、緊急時においても安全に歩けるような道路が必要)(7) ・観光客によるごみ対策。(ボランティアによる清掃にたよるだけでなく)(3)		② ③
2	藤沢市生活 環境連絡協 議会	・高齢者に対する予防医学。(健康医療診断の無料化等)(5) ・教員の職場環境等の改善。(給与や勤務時間等)(4) ・道路渋滞の解消。(公共車両がスムーズに通れる)(7)	*	② ② ②
3	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・防災対策。(1) ・藤沢市を政令指定都市へ。(9)		② ③
4	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・道路整備。(7)		②
5	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・「子育て支援の充実」に重点的に取り組んでほしい。(4)		②
6	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・高齢化社会への対応。(5) ・子ども支援。(4) ・ボール遊びが出来る公園。(7)	*	② ② ③
7	藤沢市幼児 教育協議会	・フリースクールの設置や支援を今後の視野に入れてほしい。また、保護者への相談対応、居場所づくりも必要だと思う。学識経験者だけでなく、実際に学校にいる現場の人や親などの当事者が入って制度をつくるようにしてほしい。(4)		③

8	藤 沢 市 幼 児 教 育 協 議 会	・ 不登校児童を生み出さない一助となるような 真のインクルーシブ保育・幼児教育・学校教育 の実施。(4)	*	③
9	藤 沢 市 幼 児 教 育 協 議 会	・ 認可、無認可分け隔てなく子ども達皆平等に 支援してほしい。(4) ・ 藤沢に住みたいと思われるようなまち。(9)	*	③ ②
10	(公財)湘南 産 業 振 興 財 団	・ 「地域経済の活性化」(6) ・ 「都市の発展・成長」(7) ・ 「市民が安心して暮らせる防災・防犯」(1)	*	② ② ②
11	藤 沢 市 緑 化 事 業 協 同 組 合	・ 地域に密着した行政施策。(8) ・ 地元中小企業が地域に根ざして経営が出来る 環境。(6) ・ 老朽化したインフラの優先的な改修・対応。 (7)	*	② ② ②
12	藤 沢 市 小 規 模 保 育 事 業 所 園 長 会	・ 「子育て支援」、「待機児童の対策」、「少子化対 策」(4)	*	②
13	藤 沢 市 幼 稚 園 協 会	・ 幼保小連携を重点的に取り組んでいただきたい。 現在、小学校の生活科部と交流をもち、小 学校の先生方に幼稚園児の育ちを知ってい ただく活動や、夏休みの預かり保育期間には、保 育体験の場を提供している。本来これらは生 活科部の範囲を超え、市として幼保小連携部 会のような新たな体制を整えるべきだと感じ る。現在行われている年 1 回の幼保小連携会 は、会議室での形式的な内容に留まり、実質 的な連携の深化には繋がりにくい状況である。 20年後を見据え、より実効性のある仕組み を市全体で構築していただきたい。(4)	*	③

14	藤 沢 市 幼 稚 園 協 会	・子育て対策とその子育て対策に関わっている人たちへの支援の充実。（４） ・地震、津波対策。（１）	*	② ②
15	藤 沢 市 幼 稚 園 協 会	・２世帯住宅が減り、核家族化が進んだ一方、最近だと子育て世代の家庭は、むしろいずれかの実家の近くに居を構える傾向が強い。子育ては「親族による互助」を前提に含めない限り、その分を補填する行政サービスや公的支援がなければ、ままならない。ならば敢えて、市政は地域在留型の子育て家庭に対して税率優遇や支援金を付与するなどの支援をし、「地域単位での２世帯化」を市内で活発化させてほしい。（４） ・藤沢市民が市の歴史や風土を学び、体験する施設が増やす必要がある。郷土資料館は市の北と南で最低２つ。特に北部の郷土資料館は、綾瀬市、大和市、寒川町等と連携し、市をまたいだ地域の歴史を網羅できる様な施設を望む。歴史を学ぶからこそ、生まれた町はいつしか、心のなかの大切なもの＝ふるさと、になる。（２）	*	③ ③
16	藤 沢 市 民 間 保 育 園 設 置 法 人 代 表 者 会	・企業の誘致と道路整備（補修）。（６）（７）	*	②
17	藤 沢 市 民 間 保 育 園 園 長 会	・誰もが自分らしく暮らせるまちづくりに重点的に取り組んでほしい。（５）	*	②
18	しんめいは じめ保育園	・安全で安心して住み続けられるまちづくりが大事。近年強盗事件が各地で多発しているが、防犯対策、防災対策の強化をしてほしい。（１）	*	②
19	湘 南 ひ ば り	・子どもたちが誰でも切れ目のない支援教育を	*	②

	保育園	受けられること。(4) ・幼児が育つための自然環境づくり。(3)		③
20	湘南大庭の未来を考える会議	・湘南ライフタウン活性化指針(資料編)に具体的な意見が記載されている。コミュニティ、豊富な人材から防災までの地域資源と課題、さらにはこれらを実現するための取組み方針「共生」「生彩」「発信」などを活かしてほしい。(9)	*	③
21	湘南大庭の未来を考える会議	・災害対応：海岸部の地震・津波と台地崖(開削谷・盛土切土造成地など)崩壊の対策。藤沢市の海岸部の砂丘地の境川-引地川間は、強風により南西-北東方向(海岸に平行ではない独特な形態)に形成されている。引地川西側には、数多くのパラボラ砂丘が相模原台地崖下近くに形成されている。この独特な地形条件を考慮した防災対策を市民が理解して安心するレベルでの立案を願う。(1) ・交通対策：超高齢化に伴い、交通不便地域の交通システム導入が進められているが、最新技術による導入実験の成果を実感できていない。ライフタウンは台地上の交通空白地につくられた大規模住宅団地でインフラ整備がされ、居住者はこの地域特性を理解した上で快適に住んでいる。高齢化により生活不便地域になったとは思わない。”高齢化＝不便”の認識での新しモノ導入実験は不要。現在の地域特性を基にした政策立案をお願いしたい。(7)	*	③
22	藤沢市管工事業協同組合	・インフラの再整備等を先送りするのではなく、なるべく地元企業を活用していただき、産業が空洞化することがないようにしてほしい。特に一次産業二次産業を蔑ろにしないようお	*	③

		願いたい。(6)		
23	藤沢市管工事業協同組合	- 子育て支援の充実。(4) - 健康に関わる施設の充実。(5) - 知名度の向上。(8)	*	② ③ ③
24	藤沢市測量業協会	・現在、測量業や3Kと言われる職業に就く人が極端に減っている。低賃金もあるが、発信力が足りない可能性もあり、この職業に魅力を感じられていない。(6)	*	③
25	藤沢市測量業協会	・20～50代の生産年齢へのより充実した支援。(9)	*	③
26	藤沢市測量業協会	・まちづくりコンセプト1のサステナブル藤沢について、地元で採れた新鮮な食べ物の安定供給について、重点的に取り組んでほしい。(6)	*	③
27	藤沢市測量業協会	- 地域住民だけではなく、通勤や観光に来ている人々を含めたキャパシティを持った「災害に強いまちづくり」を提唱したい。(1) - 川名・片瀬間の都市計画道路の早期実現。災害時、江の島・片瀬・鵜沼辺りは河川も2本あり、落橋した場合の避難・復興の際の生命線としての側面もある。(7)	*	③ ③
28	藤沢市民生委員児童委員協議会	・災害対策からも、JR線を越える南・北通行道路の立体化、街中道路の狭隘路地の拡張等。消防車両等がスムーズに進入できる道路の確保等。(7)	*	③
29	藤沢市民生委員児童委員協議会	- 防犯・防災対策として、高齢者や弱者を狙う犯罪の発生のないように積極的な対策に取り組むとともに、市内の地域が持つ潜在的な危険から市民を守る対策を積極的に行っていく。(1) - 子ども対策として、将来を担う子ども達がい	*	① ②

防災安全部

		じめや虐待から守られ、健康で精神的にも豊かな未来を夢見て成長できるように環境を整える。(4) ・地域安全と生活環境に高齢者、障がい者、子育て中の人達が安心して暮らせるよう歩道の整備等道路整備を全市的に実施する。また、全ての人々が安全な生活環境の中で生活することができるようにする。(7)		②
30	藤沢市民生活委員児童委員協議会	・多彩で多様な藤沢市の都市としての性格を、それぞれに強くなるように藤沢駅、辻堂駅、新村岡駅を活力ある地区にするよう取り組んでほしい。(7)	*	②
31	藤沢市民生活委員児童委員協議会 (辻堂東)	・住宅建設が軒並み進められ、地域人口が増加し、車両の増加も必然的に増加しているが道路が狭いため、交通安全上課題と感じている。道路幅に合った住宅建設を考えていただきたい。(7) ・また、市民の家が少なく、予約を取るのが困難であるため、空家の利用を市が積極的に進めるなど、いつでも集える場所が欲しい。(8)	*	③ ③
32	藤沢市民生活委員児童委員協議会	・市民の家や憩の家、やすらぎ・なぎさ・こぶし荘の活用。(8) ・地震対策。(1) ・高齢者の居場所。(5)	*	③ ② ②
33	藤沢市民生活委員児童委員協議会	・自然を守り豊かな環境をつくる、誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる、多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める、を進め、住み慣れた地域で安心して暮らせる藤沢市に取り組んでほしい。(9)	*	②
34	藤沢市民生活委員児童委員協議会	・少子化対策。(4) ・不登校児支援(対策)。(4)	*	② ① 教育部

35	藤沢市老人クラブ連合会	・独り暮らしの高齢者の公共施設の充実。個人情報保護方針が施行され、保護方針が裏目に出ていているように感じる。家庭訪問が困難な状況にあるため、見直しの時期にきているのではないか。(5)	*	③
36	地区社体協 連合会	・関連する各部署(高齢者、障がい者支援、教育、スポーツ、施設課等々)が横体制のプロジェクトチームの立ち上げをして、しっかりとしたコンセンサスをとって目標に取り組む事が大事。(2)	*	②
37	社会福祉法人二葉福祉会	・近い将来に来るであろう南海トラフ地震への対策及び津波による被害への備え。(1) ・身近な犯罪になりつつある。いわゆる闇バイト等による犯罪の抑止。(1) ・社会福祉事業に従事する全ての職員の処遇改善の更なる向上への取り組みなど。市政にての解決を望む。(5)	*	② ② ① 福祉部
38	藤沢市電設協会	・災害に備えて、藤沢市と関係団体の名簿を作成して、連絡がとれるようにしたい。(1)	*	③
39	藤沢商工会議所	・以前の公約で、片瀬江ノ島の整備があったが、これは出来なかったと認識している。前回の公約も含めて漏れのないように対応してもらいたい。20年後にあるべき姿は、うがった見方をすると先送りをするだけではないか。やらなければならない3～5年後としての時間軸を認識してやってもらいたい。商工会議所の提言書は総合指針のすべてに当てはまると思っていて、20年後にゴールとは思っていないことは心にとめてもらいたい。(9)	*	③

40	藤 沢 商 工 会 議 所	・ 藤沢駅南口の商業施設の再整備真ただ中に いるので、中期計画として、ランドマークとな るように一緒にやっていきたい。10年ぐら いでいろいろ変わってくる。もっと活性化し ていくような改定としてもらいたい。(7)	*	②
41	藤 沢 商 工 会 議 所	・ 商店街のことはどう考えているのか。村岡周 辺やそれ以外の地域についても県や近隣市と の連携をして活性化をしていくことが必要で はないか。(6)	*	②
42	湘 南 白 百 合 学 園 幼 稚 園	・ 湘南白百合学園幼稚園の近辺は、水はけが悪 く、大雨だとトイレが逆流する。何度も地域住 民から苦情が出ているはずなのに、対応が進 まず困っている。(7)	*	③
43	無記名	・ 災害対策として断水時の防災井戸の活用。地 域の防災井戸を持ち主に働きかけて、災害時 などに使えるようにしてほしい。(1) ・ 魅力ある図書館や公民館を増やしてほしい。 (2)		③ ③
44	無記名	・ 介護保険利用者が今以上に増えることに対し て対応したほうがよい。現在も申請に時間が かかりすぎる。(5) ・ 同じような内容のパンフレットが複数あり重 複していて税金の無駄と思われる。(9) ・ 次年度の予算をもらうため今年度の予算を使 い切るのは知っているが、税金の使い道を考 えてほしい。(9) ・ 地震津波対策の強化。(1)	*	② ③ ③ ②
45	無記名	・ 高齢者対策。介護認定がスムーズに行われる ことや、ヘルパー、ケアマネ不足の対策。(5)	*	① 福祉部

46	無記名	・教育。I T化・地球温暖化による日本の亜熱帯化等教育環境の変化に即した子どもの学校教育に対応できる人材を確保することで、質の高い教育が行政主導でなされることがその後の将来につながる。(4)	*	③
47	無記名	・人口減による高齢者対策。(医療等)(5)	*	②
48	無記名	・現在、江の島を中心とした観光産業は成長しているが、それにプラスして他の地域も発展させる必要がある。今、藤沢駅は魅力ある場所ではない。開発してどのくらい魅力ある地になるか、難しいと感じている。(7)	*	②
49	無記名	・地震対策と生活道路の整備。(1)(7)	*	②
50	無記名	・地震対策。(1) ・高齢者向け無料バス回数券の配布。(7)	*	② ③

ウ アンケート「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028」への意見

No.	団体名等	(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2028への意見 (一部要約)		市の考え方
1	藤沢市生活環境連絡協議会	・藤沢市は若い人が住みやすいまちとして人口が増えているが、地元の人も住みやすいまちにしてほしい。昔から受け継がれているよさが継承されるように、スピード化もよいが丁寧な説明、支援をしてほしい。(8)		③
2	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・人口減少が著しい地区に対する対応。(9)		②
3	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・「郷土愛あふれる藤沢を目指して」が気になった。藤沢市民の皆さんの藤沢愛はいかほどなのか。他県の人から出身地を聞かれたら「藤沢」と回答されるのか。もし「湘南」と答える方が多いようなら、ブランディングを再検討されるのも一考かと思う。(8)		③

4	チームF U J I S A W A 2 0 2 0	・基本方針の目指した姿になっていることを願う。(9)	*	③
5	藤沢市幼児 教育協議会	・自然を守るという点において、海、河川、谷戸などが挙げられているが、子どもたちの自ら考える力、生きる力を育む自然がすべての子どもたちの生活の近くにあるように、日常生活で触れる自然、緑を増やすような施策を検討してほしい。(3)	*	②
6	藤沢市幼児 教育協議会	・指針 2028 に沿ったまちづくり、実現してほしい。	*	③
7	(公財) 湘 南産業振興 財団	・収入確保策への取組を具体化させ、計画に必要な財源不足を補うことを明確に記載するべきではないか。(9) ・25 ページに記載の「基本目標 6」に関する点で、「テクノロジーの活用」との包括的な記載にとどめられている点について、本市は「さがみロボット産業特区」に位置づけられていることを踏まえ、「ロボットテクノロジーの積極的な活用、実装」についての具体的な記載も入れたほうがよいのではないか。(6)	*	② ① 企画政策部 経済部
8	藤沢市緑化 事業協同組 合	・「自然を守り豊かな環境をつくる」には、新たな公園や緑地を整備するよりも、現状の緑のインフラの再整備が必要と感じる。老朽化した公園や枯れが進む街路樹の更新、斜面緑地など災害時に危険と思われる場所など、目立たないことではあるが市民生活に直結する部分であるため優先的に進めて欲しい。(7) ・また地球温暖化対応として環境都市藤沢を押し進めることは住んでいる方も誇りに思い、住んでみたいと思う方も増えると思う。市政に関わるすべての人が自分の分野でエココン	*	② ① 環境部

		シヤスな行動を心がけ、例えば我々のような業界では、使用する草刈り機や剪定機のエンジンから電動器具への移行、夏の日陰を増やすような剪定方法、現場発生材から生まれるCo2の一層の削減（運搬距離減少や分別推進）などがそれに当たると考える。環境施策を積極的に行う市に住んでいることを誇りに思い、より郷土愛も深まると思う。（3）		
9	藤沢市小規模保育事業所園長会	・内容的にはとても充実している。これらを実行するため、私たちも協力出来ることを増やしていきたい。皆さんの力でより良い地域づくりを目指したい。（9）	*	③
10	藤沢市幼稚園協会	・これからの人口動態として65才以上の人が増えてくるのは自然の流れである。「郷土愛あふれる藤沢を目指して」はとても理にかなっていると思う。長期的な視点として8つの基本方針を中心として行くのはとても良いことだと思うのでこのまま続けていくとよい。今後も藤沢市が発展できるようにお願いしたい。（9）	*	③
11	藤沢市幼稚園協会	・「インクルーシブ」については具体的な施策が伴っていない。特に幼稚園等に対する補助制度・支援制度においては、今も変わらず「対象者が入った場合に補助を行う」という前提から抜け出せていない。いついかなる時に支援を要する子どもや家族が入園するかも分からないなか、真にインクルーシブを実現するためには、「常時」受入れ環境を整えておくことが施設には求められるわけで、これを「対象者が入った場合」というTPO的な措置で解決を試みることは根本から誤っている。是正を求める。（4）	*	③

		・また、市内に住む外国人世帯では、現在、3～5歳のあいだに日本語の習得を希望する声が強くなっている。日本語の巡回指導員などを市で手配・スケジュールリングしてくれるとありがたい。(5) ・子育て家庭のICT化は利用者ベースで。例えば、幼稚園と小学校の日程が一つのカレンダーアプリで確認できる様な、開放型のシステム環境づくりを心掛けてほしい。(8)		③
12	藤沢市民間 保育園設置 法人代表者 会	・マクロな内容となっており、実際に何をどうするのかミクロな視点に乏しい。(9)	*	③
13	しんめいは じめ保育園	・子どもの減少と保育士不足のなか、保育園運営も厳しい状況となる。利用する側だけでなく、運営する側の意見も聞き、安定した経営が出来るような配慮と取組をお願いする。(4)	*	③
14	湘南ひばり 保育園	・子どもたちの生活の格差を少しでも縮めてほしい。(4)	*	②
15	湘南大庭の 未来を考え る会議	・長期的な視点としての8つの基本目標は、“安全・安心、文化・スポーツ、自然・環境、子ども、暮らし、地域経済、都市基盤、多様な主体と共創・地域づくり”であるが、これは現代日本、さらには先進国の現存している課題である。藤沢らしい政策にするためには、かつての「13地区による都市づくり」のような藤沢市らしい、明解な政策の展開を期待している。(9)	*	③
16	藤沢市管工 事業協同組 合	・8つの基本目標が達成できれば安心だと思う。(9) ・少子高齢化について子育て支援というが、その前に結婚しやすい環境を整えることも必要だと思う。ここに関しては市政規模の問題では	*	③

①

子ども青少年部

		ないのかもしれない。(4)		
17	藤沢市管工 事業協同組 合	・素晴らしい。それを実現するための柔軟なアイ デアを市民と共に考え実行していけばよい。 何事も資金がなければできないがそれもアイ デア次第だと思う。(9)	*	③
18	藤沢市測量 業協会	・協力はしますので、よろしくお願いしたい。 (9)	*	③
19	藤沢市測量 業協会	・「多様な主体」の中に地震・津波・噴火等の際 の援助先として他地域との協定を結んでほし い。例えば、日本海側の都市など(相互援助が できる)又はオセアニア地域。(大噴火の場合 日本国内どころではなく、北半球が寒冷化す る可能性あり)(1)	*	③
20	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・安全・安心なまちづくりを目指すには、平時か らの意識づけへの取組が必要。(1)	*	②
21	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・8つの基本目標は良く出来ていると思うが、こ れらを実現するためには、その手段や方法が 大切と考えるので、担当する機関や職員でよ く検討し、考えて進めてほしい。(9)	*	②
22	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・具体策がみえない。茅ヶ崎市、寒川町の2市1 町の合併案は消えたのか。(9)	*	③
23	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・都市基盤の充実に期待したい。豊かで安定した 生活環境を希望する。(7)	*	②
24	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・アンケート後に、中間報告などを聞かせてほし い。どういったことを藤沢市民が思っていたか を伝えてもらいたい。(9)	*	③
25	藤沢市民生 委員児童委 員協議会	・基本方針は素晴らしいと思う。基本目標3の水 田や農地の保全が重要。都市化とともに農地 が減っていくのが心配。地産地消を進めてほ	*	②

		しい。生きていくうえで食が一番大事。(3)		
26	地区社体協 連合会	・もう少し具体的に書いて欲しい。(9)	*	③
27	社会福祉法 人二葉福祉 会	・防災環境の整備を強化し市民の生活基盤をより盤石なものにする。(1) ・市民が娯楽、スポーツ等を楽しむ環境としてアリーナを建築し藤沢市のランドマークにするなど幅広く考察し、より住みやすい藤沢の実現を期待する。(2)	*	② ③
28	藤沢市電設 協会	・担当が変わった際の申し送りが出来ていないと感じる。(9)	*	③
29	藤沢商工会 議所	・2028と改定するのであれば、2024の評価はないのか。4年間の成果を振りかえらないと次のステップに行く際に、ずれが生じてしまうのではないか。(9)	*	③
30	藤沢市幼稚 園協会園長 会	・意見集約後のフィードバックをしてほしい。(9)	*	③
31	藤沢市民間 保育園園長 会	・見通しの中では、地区によって高齢化が進んでしまうことが予想されているため、若い世代の人たちに住みやすいと思ってもらえるように、3つのまちづくりのコンセプトを目指してほしい。(9)	*	②
32	藤沢市社会 福祉協議会	・基本目標5は、フォーマル、インフォーマルの両方の要素を入れてほしい。また、1つめと2つめの○は、みんなにわかりやすい表現か再度確認してほしい。(5)	*	① 福祉部
33	藤沢市設計 監理協会	・関係団体や地区からの意見聴取結果を庁内で共有して、反映していくことは、経緯が漠然としているので、明確化出来ないか。集まった意見が極端だった場合、それが多数の意見だった場合、どうするのが課題だと感じている。	*	③

		(9)		
34	藤沢市行財政改革協議会	・藤沢市の人口問題を検討するうえでは、流出口と関係人口についても分析する必要があると考える。本文において言及してはどうか。 (9) ・世帯数の見込みについて、「高齢者や非婚者をはじめとする単身世帯化がさらに進むことにより」と唯一の理由として断定しているように見える。婚姻に関する社会制度の変化も考慮して「単身世帯化も進む見込みなどから」といった表現に緩和してはどうか。(9) ・P19 3Rの取組みについて、プラスチック(容器包装など)を使わない循環経済の実現を生産者と消費者がともに進めていく必要があります。…より具体的に脱プラスチックの先進都市を藤沢市が目指すことを記載するよう提案する。(3) ・P21 「将来の妊娠・出産・育児に対し、自らのキャリア形成や趣味での活動などとのバランスをとること、子育て・教育にかかる費用と経済的な安定及び将来に対する不安が根本にあると考えられます。」…子どもを持つ生活が人生全般(特に女性)に経済的不安をもたらす背景を考慮して太字の追加記載を希望する。(4) ・P23 地域共生社会の実現に向けた地域づくりに関して、貧困問題・格差問題への対応にも言及していただきたい。(5) ・P25 「生産年齢人口の減少により想定される、人手不足、人材不足に対応する」には、大胆なデジタル化推進がキーポイントと考えます。 「中小企業や商店のデジタル化や脱炭素化を	＊	① 事務局 ① 事務局 ① 環境部 ① 子ども青少年部 ① 福祉部 ① 経済部

		含めた総合的な経営支援」「生産年齢人口の減少により想定される、人手不足、人材不足にデジタル化などを進めて対応する」などの太字の挿入を提案する。（「スマート藤沢」の視点が行政中心となっているため、地域経済への施策にデジタル化が重要であることを本項目において強調したい）（６）		
35	藤沢市行財政改革協議会	・コンセプト２（および関連政策）について、インクルーシブの観点から、すべての人がデジタル社会に適応できるようすべき。デジタル対応の可否は、社会的分断や世代間の断絶の要因の１つにもなっていると思う。適応とは、使い方を覚えてもらうということもあるが、むしろ技術を意識することなく自然に利活用できるようにすることが必要。そのための取組を市と市民や関係企業等の共創のもとに進めて行くことが求められている。（９） ・コンセプト３について、基本目標や重点施策では触れられているが防犯や見守りに触れておいた方がよい。（９） ・８つの基本目標について、各項の〔長期課題〕に述べられている事柄は、いずれももったもな内容であるが、中には直ぐにでも（部分的にでも）実現して欲しい項目も多く、すべてを「長期」とするのはいかがか。小見出しを「長期課題」ではなく「課題」としてはどうか。また、「２０４５年の藤沢市の姿として」と示されているビジョンについては、２０年後と言わず、もっと早期に実現して欲しい、あるいは出来そうに思われる内容も多く含まれています。今の時代に２０年後という目標設定はどのようなのか。２０４５年はあまりにも先のこと	*	① 企画政策部 ① 防災安全部 ③

		で実感が湧かないので、5年後位でよいように思う。(9) ・重点方針について、取組の考え方に、「データ(証拠)に基づく政策立案(評価)」「データの活用」を加えてはいかがか。(9) ・全体の構成について、多くのことを盛り込もうとされた結果、全体の構成が複雑で分かりにくくなっている。同じような内容について複数の箇所で繰り返し語られており、丁寧な反面、繁多な印象を受ける。また、キーとなる言葉も、「コンセプト」「基本目標」「まちづくりテーマ」など複数あり、どれが一番重要なのか、伝わりにくいのではないか。今から構成を見直す訳にはいかないとしますので、ダイジェストを作成し、全体を俯瞰することができるようになっていただくとよい。(9) ・K P I の目標設定の考え方(数値の根拠)を、個別に示すべきではないか。また、数値だけでは、ハードルの高さがわからないため、どの程度の難易度なのかの説明もほしい。共創を進めるためにも、関係者が目標を共有することが必要と思う。(9)		① 事務局 ③ ① 事務局
36	湘南白百合学園幼稚園	・20年、4年ごとという具体的なリミットを設定して運営案が出ているのは、とてもよい。今後、具体的に計画案が示されることを待ちたい。(9)	*	③
37	無記名	・地域で支援の必要な子どもから高齢者まで、人口減少の中での担い手対策の施策をもっと具体的に明示してほしい。(9)	*	③
38	無記名	・今後20年間の変化を思うと、大変厳しい改定作業となる。シンギュラリティが起こるのが2045年との説もあり、雇用の減少、財源確	*	① 事務局

		保、健康への影響（臓器となる人工物や薬の進歩）も激変する時代に対応できる人的資源の確保が必要。（９）		
39	無記名	・郷土愛あふれる藤沢（持続可能な元気なまち）は賛成。基本目標はよい。（９）	*	③
40	無記名	・基本的目標４について、 １つ目の○は原因と対策が対応していてよい。２つ目の○は、子どもの意見表明の機会の確保の必要性が伝わりにくい表現になっている。子どもの意見表明については、子ども基本法・児童権利条約でも重要な権利とされているので、１つ目の○のように、「意見表明の場を整備する必要があります」と記載してはいいかがか。３つ目の○は、「子どもの貧困の解消を目指す」ことが唐突に盛り込まれている印象。４・５・６つ目の○には特に意見はない。７つ目の○は、こども基本法３条５号に対応していると推察するが、「家庭での養育が困難なこども」に対する援助を含んだ表現になっているという理解でよいか。８つ目の○は、教育関係のようなので、４・５つ目の○の近くに置くか、統合するとわかりやすくなるのではないか。（４）	*	① 子ども青少年部

以 上